

工 事 番 号							
設計年度	令和 4 年度		橋梁補修工事（市道大和町萩原賀茂線萩下橋外1橋） 三原市 大和町萩原外 仕 様 書				
施工月日	令和 年 月 日						
施工方法	請 負						
工事期間							
工 事 概 要			起 工 理 由				
橋梁補修工事 N=2橋 オーバーレイ工 A=40m2 ゴム製伸縮装置補修 L=49.5m 断面修復工 V=0.324m3 沓座モルタル補修 V=0.012m3 表面含浸工 A=75m2 塗装塗替工 A=75m2							

特 記 仕 様 書

第1章 総則

第1節

適用

- 1 本特記仕様書は、三原市大和町萩原外 橋梁補修工事（市道大和町萩原賀茂線萩下橋外1橋）に適用する。
- 2 本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。

・土木工事共通仕様書（令和4年8月）広島版

※ 土木工事共通仕様書は「広島県の調達情報」に掲載している。

<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/>

・その他関連規格類

第2節

情報共有システム

- 1 本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に基づき実施すること。
- 2 本工事で使用する情報共有システムは次とする。
広島県工事中情報共有システム
<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html>
- 3 監督員及び受注者が使用する情報共有サービスのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする。
- 4 なお、工事完成時については、提出する必要がある工事成果品を電子納品すること。また、試行期間中は工事検査を紙媒体で受検することから、受注者は、工事成果品1部を紙媒体により提出すること。
- 5 受注者は、監督員及びサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第3節

法令及び条例等の遵守

- 1 次の内容について、施工計画書の「その他」項目に記載すること。
 - (1) 工事の実施にあたり、発注者から明示された、又は、受注者が行うべき『法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件』
 - (2) 上記(1)の内容について『不測の事態等が生じた場合の対応方法』
 - (3) 上記(1)、(2)の内容について『現場作業に従事する者に対する周知の方法』
- 2 「施工方法」等の関連する項目に、許可承諾条件等を適切に反映すること。
- 3 『法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件』等の変更が生じた場合は、施工計画書の内容に重要な変更が生じたものとし、変更施工計画書を提出すること。

第4節 建設副産物

本工事における建設副産物の取扱いについては、土木工事共通仕様書1-1-1-19 建設副産物「4. 再生資源利用計画」、「5. 再生資源利用促進計画」及び「6. 実施書の提出」によらず、次のとおり取り扱う。

1 再生資源利用計画及び再生資源促進計画

受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。また、受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。なお、その内容に変更が生じたときは、速やかに利用計画及び促進計画を変更し、監督職員に報告しなければならない。

2 計画の掲示及び公表

受注者は、1の再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するものとする。

現場掲示様式については、次のURLを参考に作成すること。

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm

3 実施書の提出

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を監督職員に提出しなければならない。なお、受注者は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の作成後、工事完成から5年間保存しなければならない。

4 工事現場の管理体制

受注者は、再生利用の促進を行うため、工事現場における建設副産物責任者を置くことにより、管理体制を整備するとともに、当該責任者に対し、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画の内容について現場担当者の教育を十分行うこと及び、関係する他の施工者及び資材納入業者もこれを周知徹底することを指導するものとする。

第5節 現場代理人の常駐義務の緩和

特記仕様書（共通事項）第1章 総則 第4節 現場代理人の常駐義務の緩和によらず、次のとおり取り扱う。

監督職員等と携帯電話等で常に連絡がとれることに加え、次に掲げるいずれかの事由に該当する場合には、建設工事請負契約約款第10条第3項に規定する「現場代理人の工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がなく、かつ、発注者との連絡体制が確保されると認めた場合」として取り扱う。

- (1) 請負金額が4,000万円（建築一式工事にあつては、8,000万円）未満
- (2) 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間
- (3) 建設工事請負契約約款第20条第1項又は第2項の規定により、工事の全部の施工を一時中止している期間
- (4) 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であつて、工場製作のみが行われている期間
- (5) 前3号に掲げる期間のほか、工事現場において作業等が行われていない期間
- (6) その他、特に発注者が認めた期間

第2章	施工条件		
	第1節	工程	
		1	施工時期・時間の制限 施工内容 時期 時間 施工方法・理由 工事全般 現在河川管理者と協議中であり、河川協議の内容を踏まえて施工すること。 また、足場上作業が伴う工種については渇水期中に施工すること。 調整による 工事箇所が生活道路であるため、調整を十分に行い理解を得たうえで施工を行うこと。
	第2節	用地	
		1	現場の復旧 原形復旧とする。
	第3節	安全対策	
		1	交通誘導員・警戒船・保安要員 工事期間中、関係工種において交通誘導員を2（人／日）見込んでいる。
	第4節	工事用道路	
		1	一般道路 使用期間 使用時間 工事中・後の処置 工事施工期間 8時30分～17時 随時 清掃、工事後 舗装欠損部補修（工事前・後の写真により監督員と協議すること。設計変更の対象とする。）
	第5節	建設副産物	
		1	産業廃棄物の場外保管 当該工事により発生する産業廃棄物を事業場の外（建設工事現場以外の場所）において300m2以上の面積で保管する場合には、保管場所を所管する都道府県知事又は政令市長に事前の届出を行うこと。また、届出事項を変更する場合は事前に変更届を、保管をやめたときは30日以内に廃止届を提出すること。 ただし、産業廃棄物処理業等の許可施設における保管は届出対象外とする。
	第6節	その他	
		1	工事用機資材の仮置き 場所 受注者が責任をもって確保すること。
		2	各補修工の事前調査 受注者は、橋梁洗浄後に補修図をもとに詳細計測を行い、補修内容について発注者と協議を行った後、施工を行うこと。
		3	有害物質を含む塗膜等の処分 受注者は塗膜除去による廃材について、有害物質を含む特別管理産業廃棄物として適切に処理しなければならない。なお、処分費については変更の対象とする。

第3章 設計金額

第1節 排出ガス対策型建設機械の使用促進

土木工事共通仕様書（令和4年8月）『1-1-1-31 環境対策』で使用を義務付けている排出ガス対策型建設機械においては、排出ガス対策型（第2次基準値）以上の建設機械の使用に努めること。

なお、使用する排出ガス対策型建設機械について、基準値による設計変更は行わない。

第4章 施工箇所が点在する工事の積算

本案件は、施工箇所が点在する工事の適正な工事価格を算出するため、参考図書に示す工事箇所と施工箇所を基に次の算定方法とする。

算定方法

（1） 工事原価

ア 直接工事費

施工数量及び施工規模等は工事箇所ごとに判断し、施工箇所ごとに直接工事費を算定する。

イ 間接工事費

（ア） 共通仮設費

a 共通仮設費の率分

対象額は工事箇所ごとに算定し、工種区分はその工事箇所の主たるものを適用する。

b 共通仮設費率の補正

工事箇所ごとに施工地域及び工事場所区分の補正を行う。

c 積上げ計算による部分

施工箇所ごとに必要な経費を積上げる。

（イ） 現場管理費

a 現場管理費の算定

対象とする純工事費は工事箇所ごとに算定する。

b 現場管理費率の補正

工事箇所ごとに施工時期、工事期間、施工地域及び工事場所区分の補正を行う。

（ウ） 中止期間中の現場維持費等の費用

a 積上げ項目

施工箇所ごとに必要な経費を積上げる。

b 率で計上する項目

対象額及び一時中止日数は施工箇所ごとに算定する。

（2） 一般管理費等

ア 一般管理費等の算定

対象とする工事原価は（1）の計による。

なお、処分費等が「共通仮設費対象額（P）＋準備費に含まれる処分費」に占める割合の3%を超える場合又は処分費等が3千万円を超える場合、率計算の対象については、工事箇所ごとに対象額を算出する。

第5章 工事保険等

第1節 法定外の労災保険の付保

- 1 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
- 2 受注者は、建設工事請負契約約款第54条に基づき、法定外の労災保険の契約締結したときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。
- 3 法定外の労災保険は、政府の労働災害補償保険とは別に上乗せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、労働者災害補償保険法に基づいて契約を締結しているものとする。

第6章 その他

本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

工事数量総括表

頁0 -0001

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
本工事費（萩下橋）					
橋梁保全工事		式		1	レベル1
舗装工		式		1	レベル2
オーバーレイ工		式		1	レベル3
表層(車道・路肩部)	再生密粒度アスコン13 平均t=1.5cm	m2		23	レベル4
橋梁付属物工		式		1	レベル2
伸縮継手工		式		1	レベル3
ゴム製伸縮装置補修		m		41.4	レベル4
橋梁用防護柵工		式		1	レベル3
橋梁用防護柵		m		4	レベル4
橋梁補修工		式		1	レベル2
支承補修		式		1	レベル3
沓座モルタル補修	無収縮モルタル	m3		0.002	レベル4
構造物撤去工		式		1	レベル2
防護柵撤去工		式		1	レベル3
防護柵撤去(ガードレール)		m		4	レベル4
構造物取壊し工		式		1	レベル3
コンクリートはつり	3cm以下	m2		0.06	レベル4

工事数量総括表

頁0 -0002

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
運搬処理工		式		1	レベル3
殻運搬	Co殻（有筋）	m3		2	レベル4
殻処分	Co殻（有筋）	m3		2	レベル4
仮設工		式		1	レベル2
交通管理工		式		1	レベル3
＊＊直接工事費＊＊					
共通仮設費率分					
＊＊共通仮設費計＊＊					
＊＊純工事費＊＊					
現場管理費					
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分					
契約保証費					
一般管理費計					
＊＊工事価格＊＊					
＊＊消費税相当額＊＊					
＊＊工事費計＊＊					
＊＊契約保証費計＊＊					

工事数量総括表

頁0 -0001

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
本工事費（中倉橋）					
橋梁保全工事		式		1	レベル1
舗装工		式		1	レベル2
オーバーレイ工		式		1	レベル3
表層(車道・路肩部)	再生密粒度アスコン(13) 平均t=3cm	m2		17	レベル4
橋梁付属物工		式		1	レベル2
伸縮継手工		式		1	レベル3
ゴム製伸縮装置補修		m		8.1	レベル4
橋梁補修工		式		1	レベル2
断面修復工		式		1	レベル3
左官工法	ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有り	構造物		1	レベル4
充填工法	無収縮モルタル	m3		0.004	レベル4
支承補修		式		1	レベル3
沓座モルタル補修	無収縮モルタル	m3		0.01	レベル4
表面含浸工		式		1	レベル3
下地処理		m2		75	レベル4
表面含浸工	けい酸塩系表面含浸材（固化型）	m2		75	レベル4
現場塗装工		式		1	レベル2

工事数量総括表

頁0 -0002

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
塗膜剥離工		式		1	レベル3
湿式塗膜剥離工		m2		149	レベル4
橋梁塗装工		式		1	レベル3
素地調整	2種ケレン	m2		75	レベル4
表面被膜処理工		m2		75	レベル4
下塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗 下塗2回	m2		149	レベル4
中塗	弱溶剤形フッ素樹脂塗料用中塗	m2		75	レベル4
上塗	弱溶剤形フッ素樹脂塗料用	m2		75	レベル4
水切設置工		式		1	レベル3
水切設置工	後付け型水切材	m		32	レベル4
構造物撤去工		式		1	レベル2
運搬処理工		式		1	レベル3
殻運搬	Co殻（有筋）	m3		1	レベル4
殻処分	Co殻（有筋）	m3		1	レベル4
仮設工		式		1	レベル2
足場工		式		1	レベル3
交通管理工		式		1	レベル3
直接工事費					

工事数量総括表

頁0 -0003

[illegible]

S=1 : 60

Technical drawing of a bridge deck cross-section. The drawing shows a rectangular bridge deck with a width of 26,500 mm (橋長 26500) and a height of 250 mm (支間長 25900). The deck is supported by two piers, labeled M and F. The drawing includes dimensions for the bridge length (橋長 26500), the span length (支間長 25900), and the width of the deck (桁長 26400). The drawing also shows the bridge deck structure, including the bridge deck slab, the bridge deck reinforcement, and the bridge deck supports. The drawing is labeled with '橋面工:伸縮装置工,部材部分取替工' (Bridge Deck Work: Expansion/Contraction Device Work, Component Replacement Work) and '支保工:省座モルタル打替工' (Support Work: Replacement of Mortar for the Support). The drawing is also labeled with '橋面工:伸縮装置工' (Bridge Deck Work: Expansion/Contraction Device Work) and '橋面工:オーバーレイ工' (Bridge Deck Work: Overlay Work).

Figure 1.10 is a technical drawing of the bridge deck cross-section. The drawing shows a cross-section of a bridge deck with a total width of 7000 mm. The deck is supported by four piers labeled G1, G2, G3, and G4. The piers are spaced 650 mm apart. The deck has a height of 675 mm. The drawing includes dimensions for the deck width, pier spacing, and the height of the deck. A red line indicates the '橋面工・伸縮装置工' (Bridge deck and expansion joint work). The drawing also shows the '下流側' (Downstream side) and '上流側' (Upstream side).

Technical drawing of a bridge deck cross-section. The drawing shows the deck structure with various dimensions and construction details. Key dimensions include a total width of 8927, a deck height of 625, and a base width of 844. The drawing also shows the location of the bridge piers (G1, G2, St1) and the bridge abutments (G3, G4). The drawing is labeled with '橋面工:オーバレイ工, 伸縮装置工' (Bridge Deck Work: Overlay Work, Expansion Device Work) and '橋面工:部材部分替工' (Bridge Deck Work: Component Replacement Work). The drawing is oriented with '下流側' (Downstream Side) on the left and '上流側' (Upstream Side) on the right.

[illegible]

伸縮装置工
オーバーレイ工

沓座モルタル打替工
 部材部分取替工
 仮設足場工
 吊足場, 朝顔

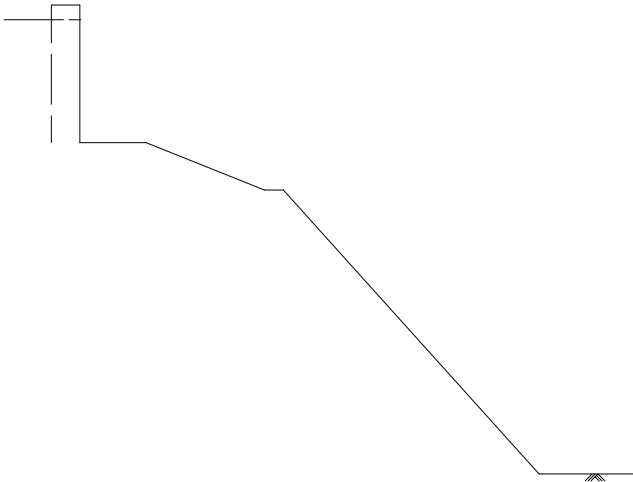
- ※ 本図面は、現地に簡易な計測を行い、作成したものである。
- ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
- ※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

救下橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原賀茂線救下橋外1橋)		
図 面 名	補修計画一般図面		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 5
三 原 市			

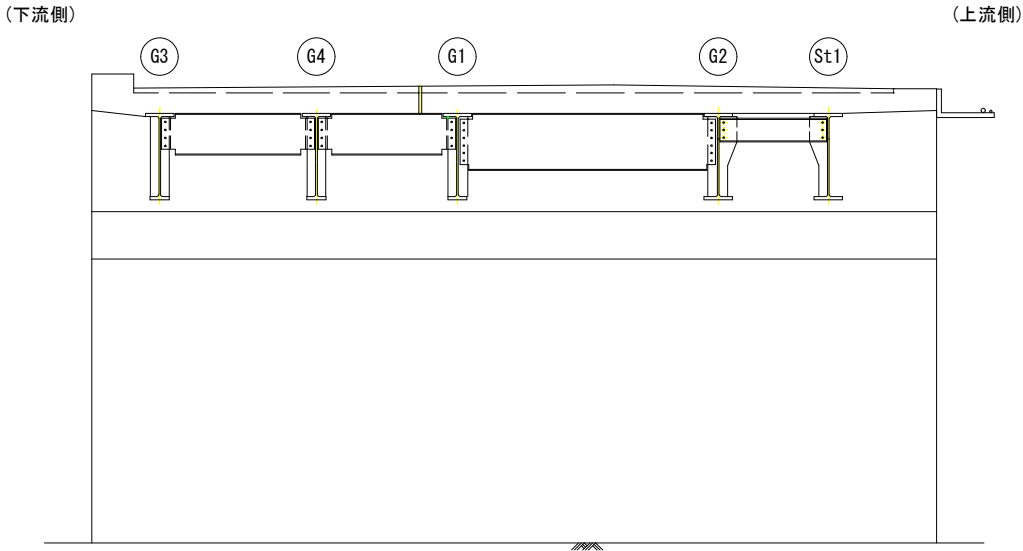
萩下橋 補修図（その1） S=1:40

A2橋台
沓座モルタル打替工

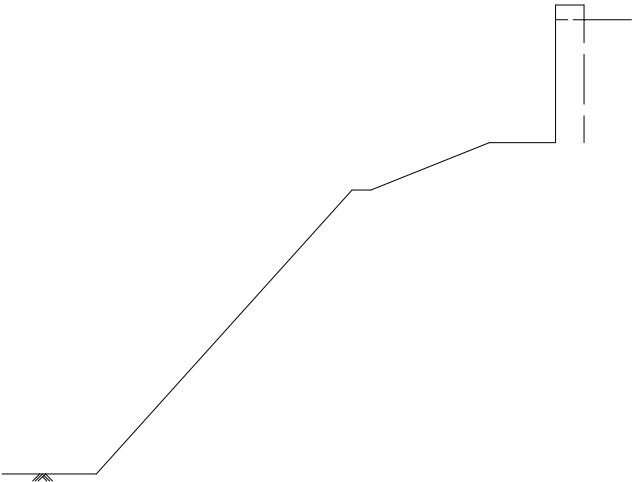
上流側側面図



正面図



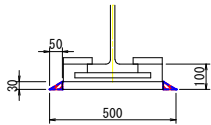
下流側側面図



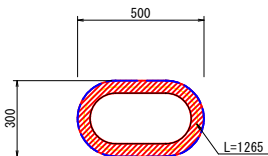
沓座モルタル詳細図（撤去） S=1:15

断面図

N=1基



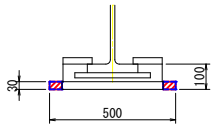
平面図



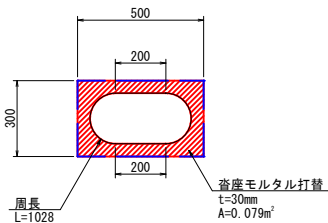
沓座モルタル詳細図（復旧） S=1:15

断面図

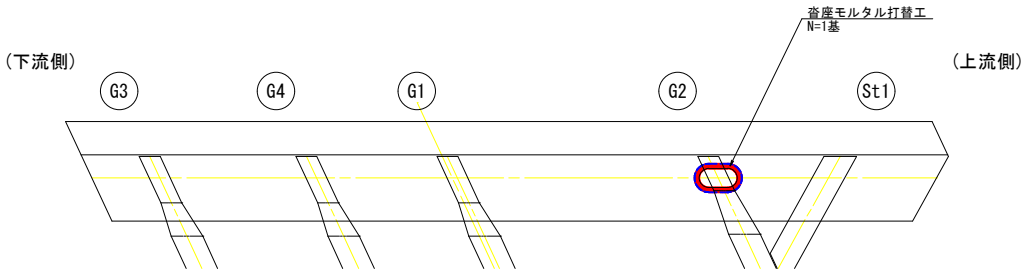
N=1基



平面図



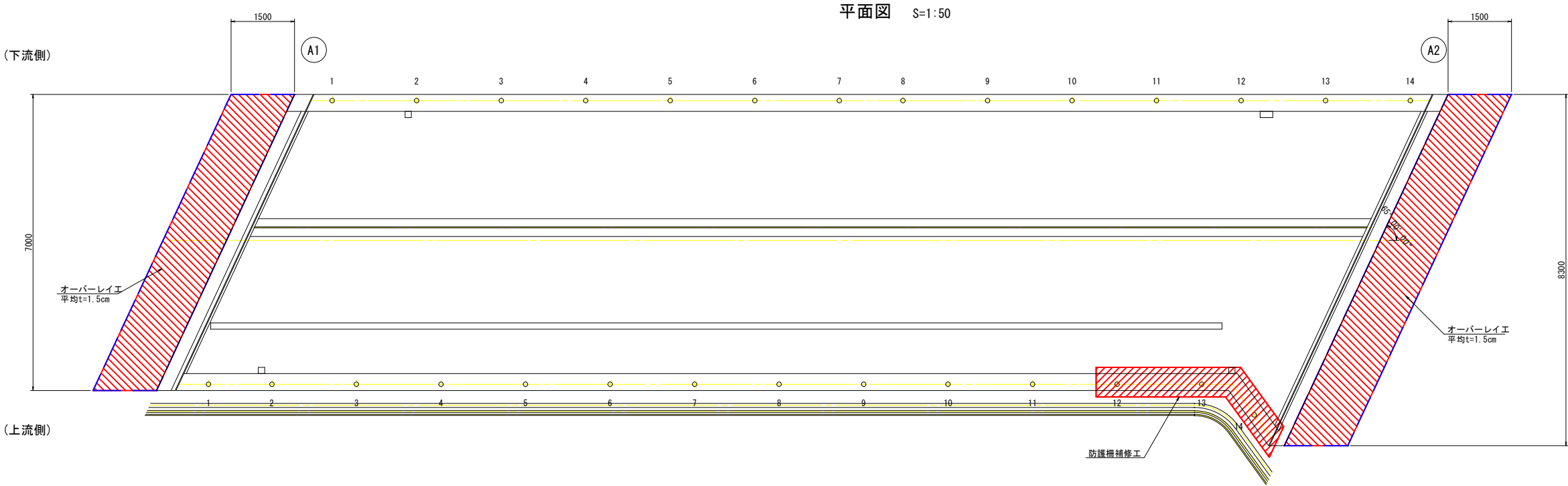
橋座平面図



※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

萩下橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その1)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 5
三 原 市			

萩下橋 補修図(その2)
橋面
オーバーレイ工, 部材部分取替工(防護柵補修工)

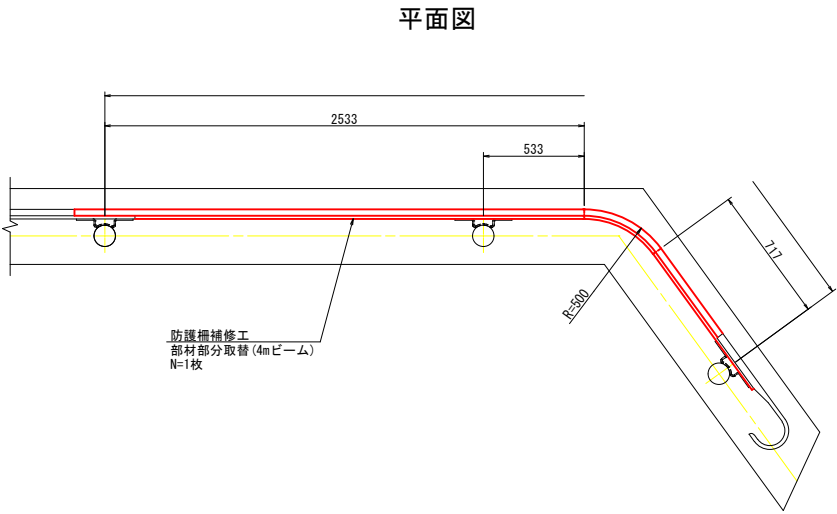


※ は、勾配2%で盛り付けた場合の盛り付け想定範囲を示す。
※ 路面の段差を解消することが目的である。現地状況により施工範囲を決定すること。

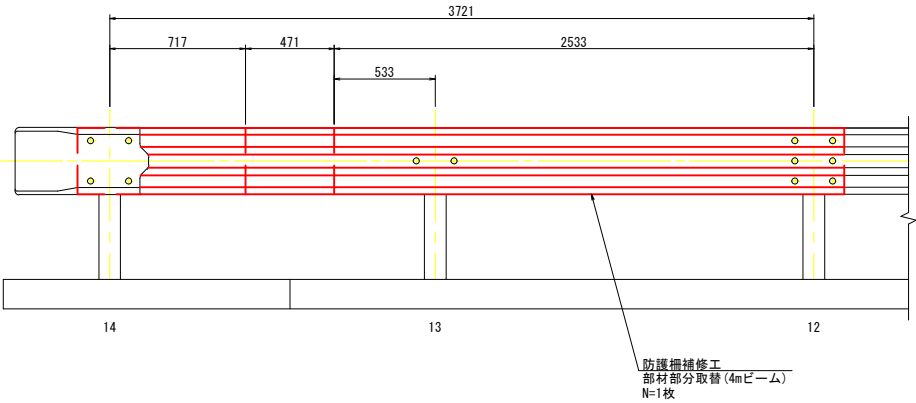
舗装工数量表

(1橋当り)				
名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
オーバーレイ工	再生密粒度アスコン	m ²	0.345	

防護柵補修工 詳細図 S=1:20



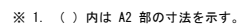
正面図



※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

萩下橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その2)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 5
三 原 市			

(横目地部)

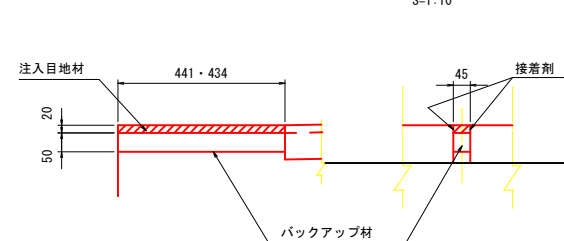
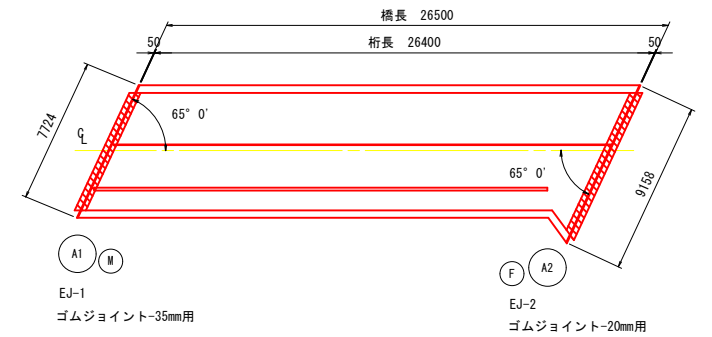


2. A2 部のジョイント幅を 2mm 圧縮とするが、施工時の材令、温度を確認のうえ決定する。

E1	-1	$4-D16 \times 3000$
E1	-2	$4-D16 \times 3840$
E1	-3	$4-D16 \times 3050$
E1	-4	$4-D16 \times 5230$

伸縮裝置數量表

材 料 名	種 類	寸 法	数 量	摘 要
伸縮装置	ゴムジョイント-35mm用	105×90×1800	2 本	合計 6.841 m 左65° 切断 左65° 切断
		105×90×661	1 本	
		105×90×1204	1 本	
		105×90×1376	1 本	
	ゴムジョイント-20mm用	95×90×1800	3 本	合計 8.282 m 左65° 切断 右61° 切断
		95×90×614	1 本	
		95×90×1251	1 本	
		95×90×1017	1 本	
後打ち材	超速硬コンクリート	700×120×15123	1.270 m ³	
補強鉄筋	E1-1	4-D16×3000	18.7 kg	合計 94.3 kg
	E1-2	4-D16×3840	24.0 kg	
	E1-3	4-D16×3050	19.0 kg	
	E1-4	4-D16×5230	32.6 kg	
後施工アンカー	D筋アンカー	D16	199 本	
注入目地材	シーリング材	45×20×1757	1.6 L	
プライマー			0.022 kg	
バックアップ材	ウレタンフォーム	90×50	1.757 m	
接 着 剤	合成ゴム系接着剤		0.026 kg	
二次止水材	ゴム樋帆布入り		15.123 m	排水ドレイン付
搬 送 費	コンクリート塊		1.271 m ³	
敷 設 分	Co設（有筋）		1.271 m ³	

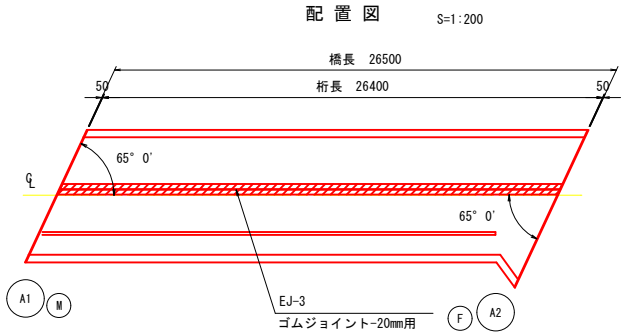
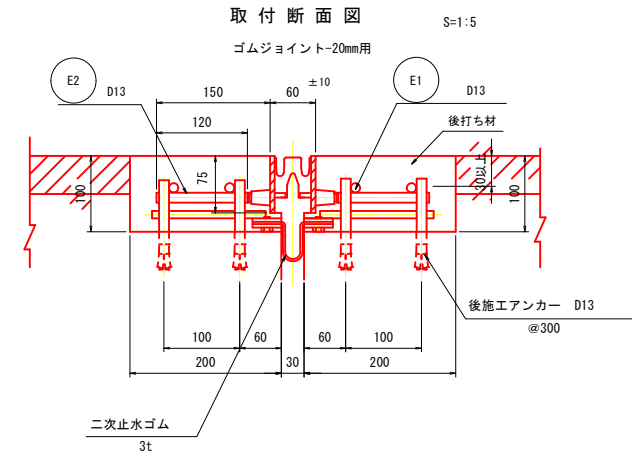
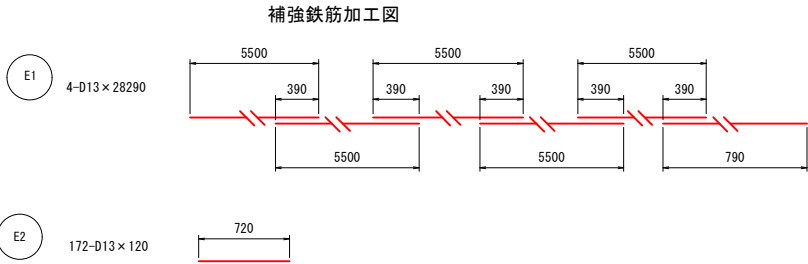
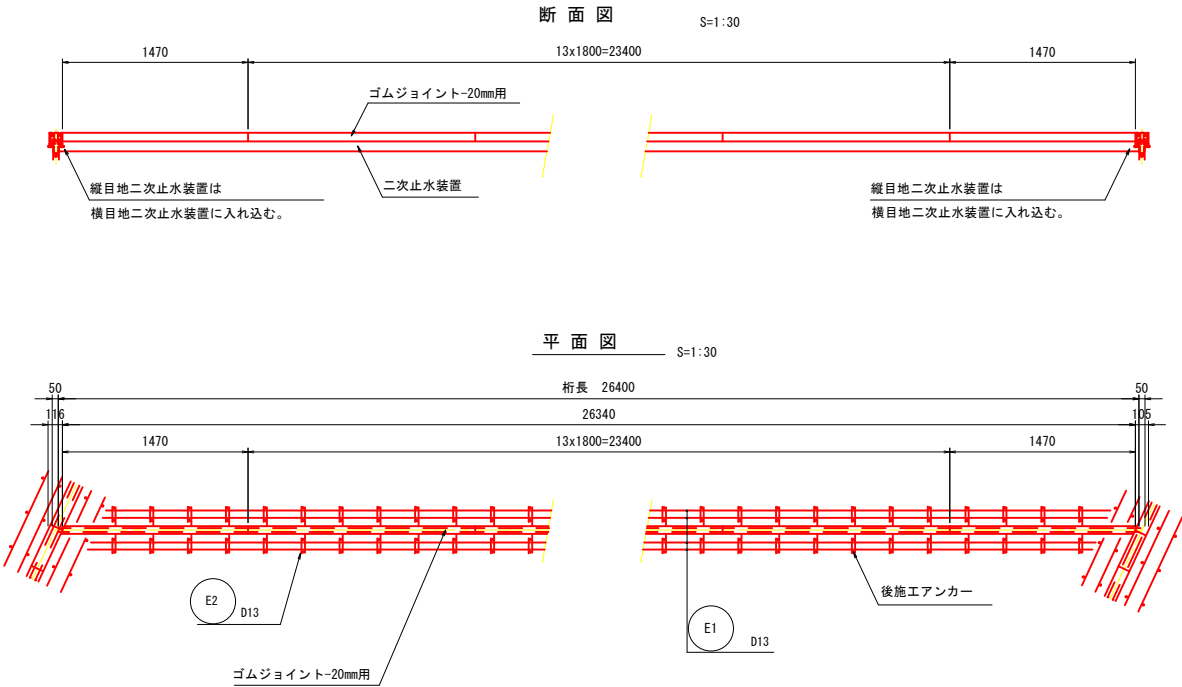


- ※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
- ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
- ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆりみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

表下橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原尻線表下橋外1橋)		
図 面 名	伸縮装置詳細図 (その1)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 5
三 原 市			

荻下橋 伸縮装置詳細図（その2）

（縦目地部）



伸縮装置数量表

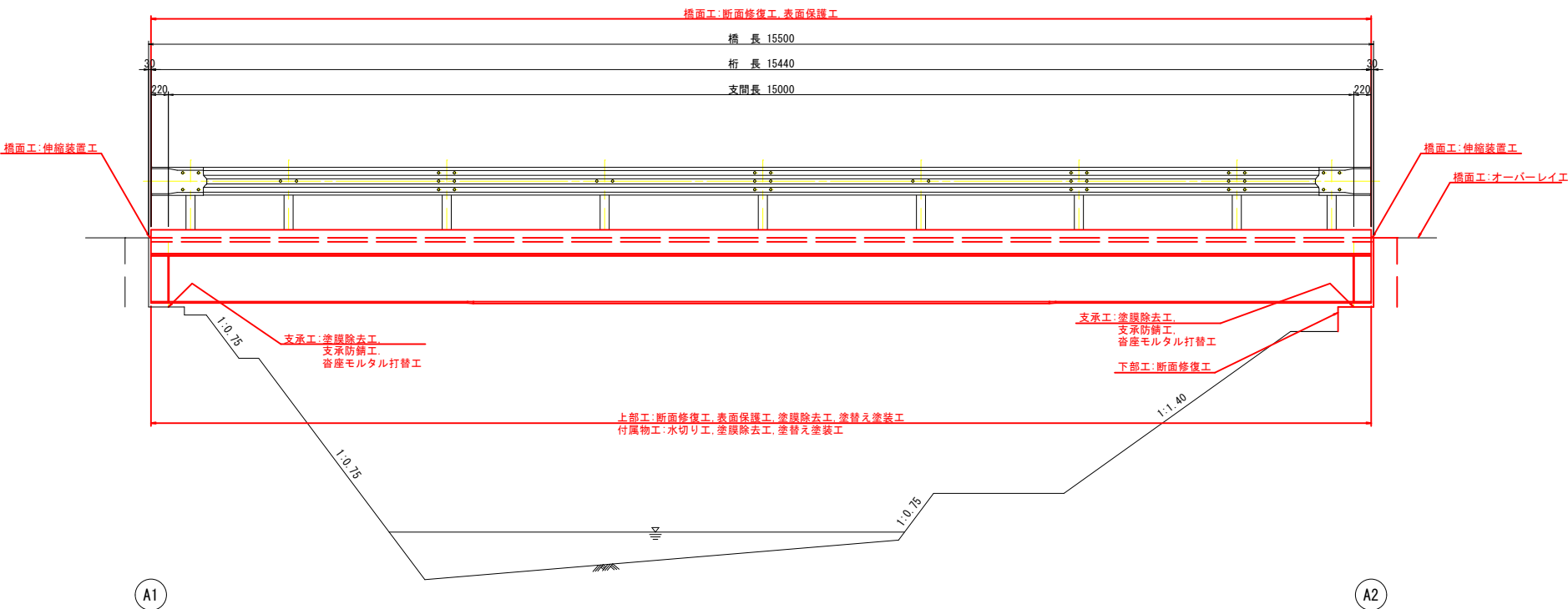
材 料 名	種 類	寸 法	数 量	摘 要
伸縮装置	ゴムジョイント-20mm用	60×75×1800	13 本	合計 26.34 m 右65° 切断
		60×75×1470	2 本	
後打ち材	超速硬コンクリート	400×100×26340	1.054 m ³	
補強鉄筋	E1	4-D13×28290	112.6 kg	合計 133.1 kg
	E2	172-D13×120	20.5 kg	
後施工アンカー	D筋アンカー	D13	344 本	
二次止水材	ゴム縦帆布入り		26.340 m	
搬 運 搬	コンクリート塊		1.054 m ³	
敷 込 分	Co敷（有筋）		1.054 m ³	

※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

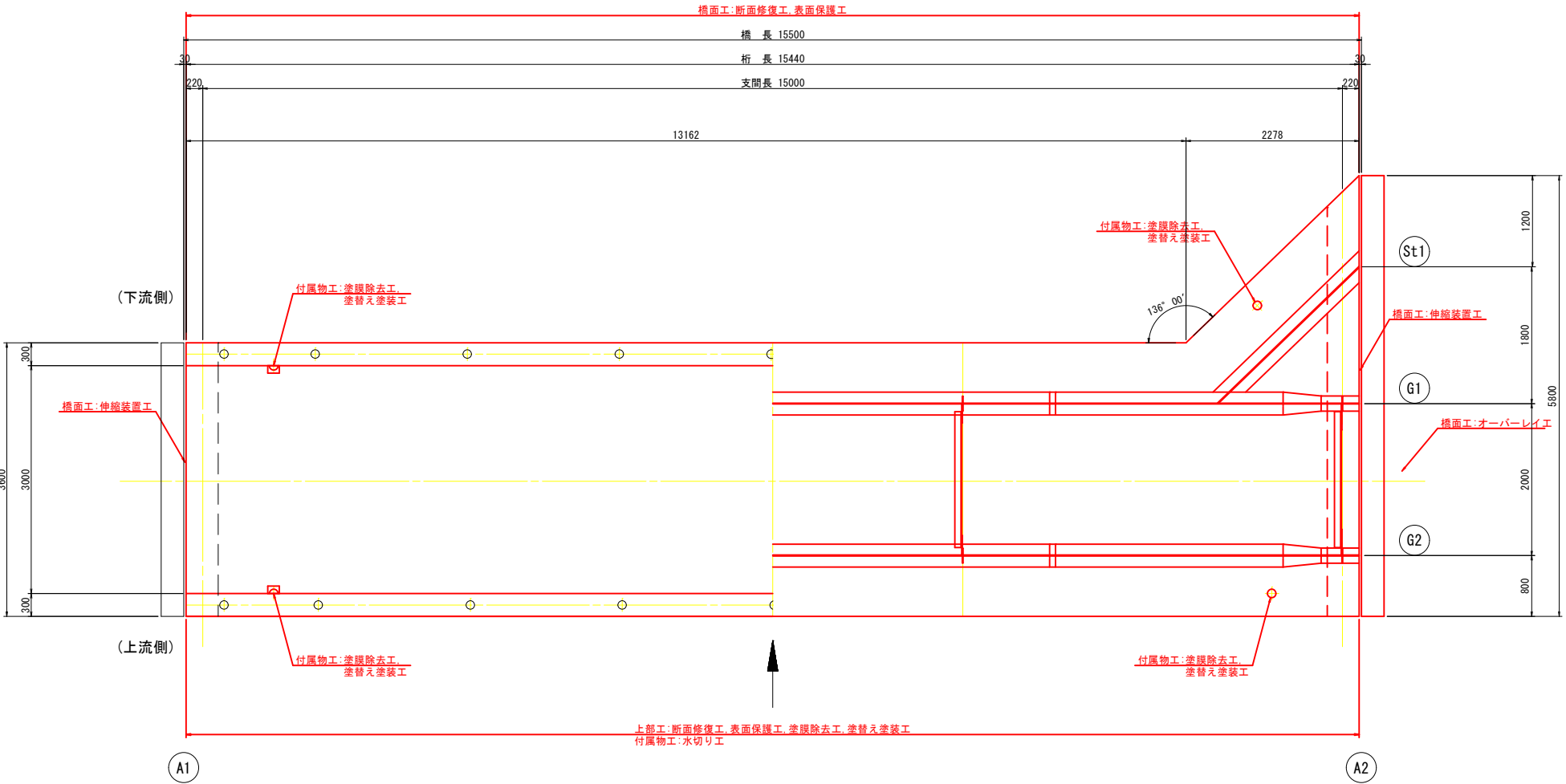
荻下橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	伸縮装置詳細図(その2)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 5
	三 原 市		

中倉橋 補修計画一般図 S=1:40

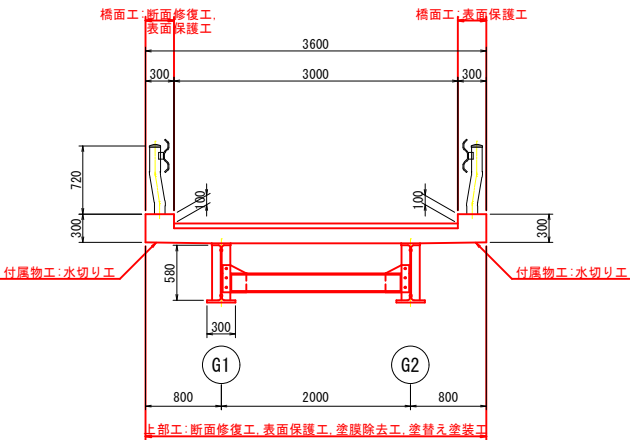
側面図



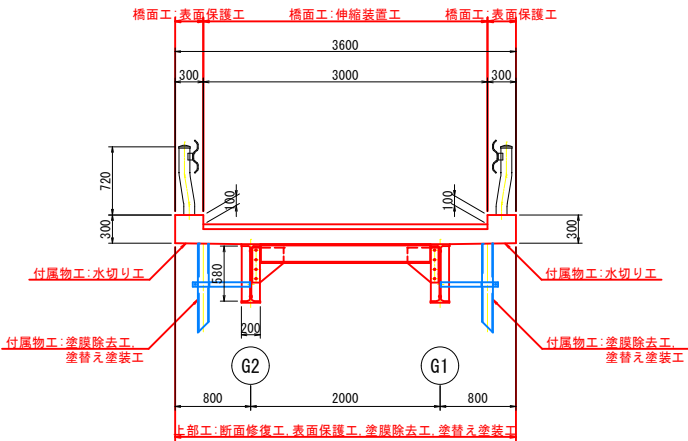
平面図



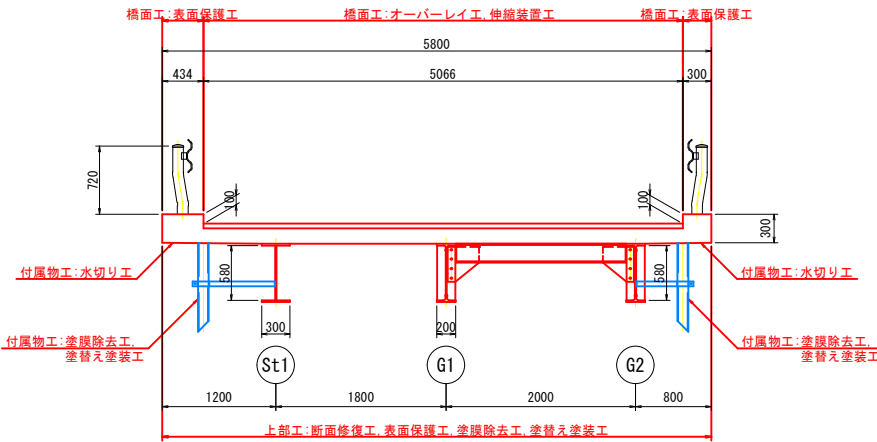
標準断面図



A1橋台上 端横桁



A2橋台上 端横桁



対策工法一覧表

伸縮装置工

オーバーレイ工

断面修復工

表面保護工

水切り工

塗膜除去工

塗替え塗装工, 支保防錆工

省座モルタル打替工

仮設足場工

吊足場, 朝顔

※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。

※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。

※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。

※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

中倉橋

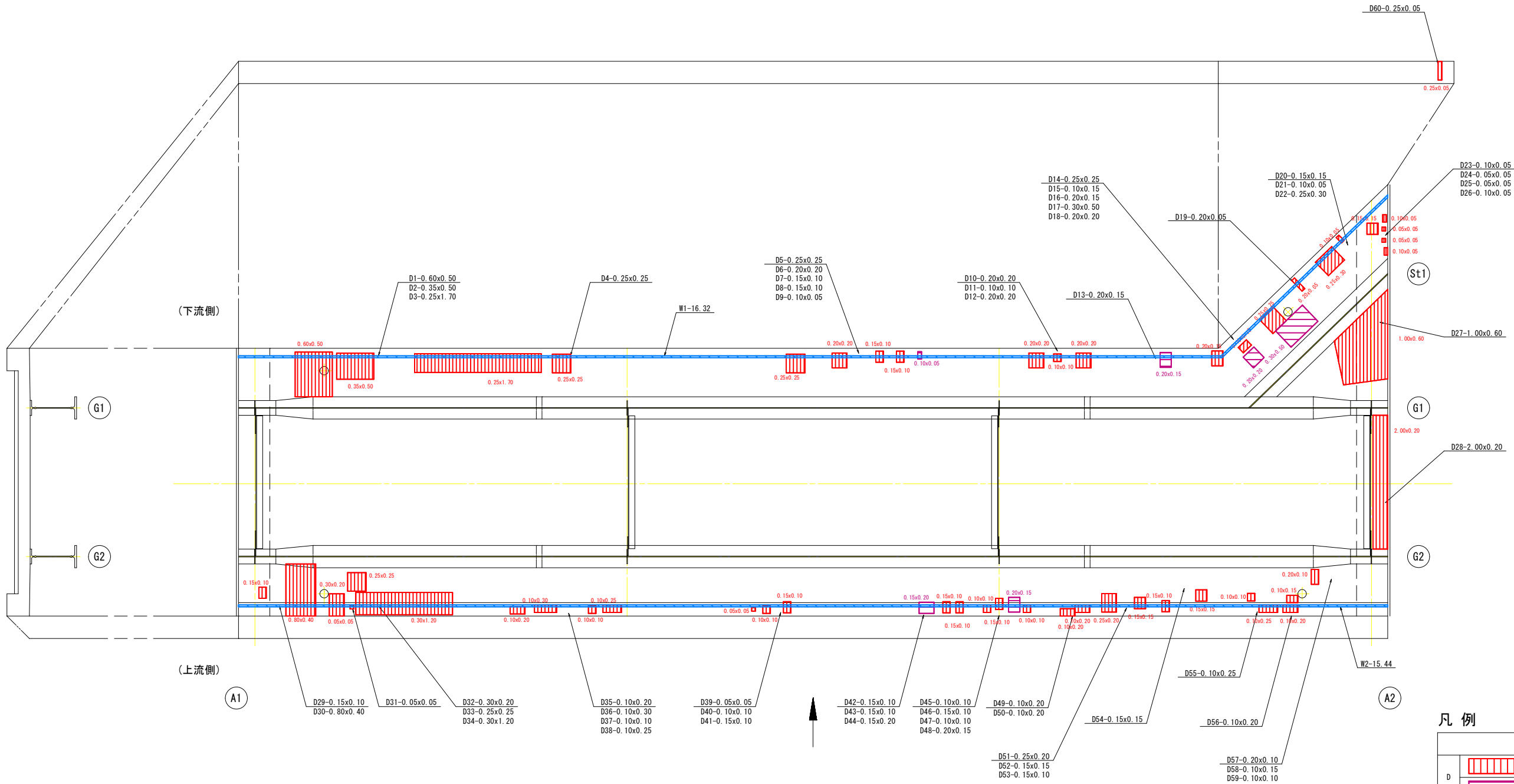
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修計画一般図		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 10

中倉橋 補修図（その1）

S=1:30

桁下面（コンクリート部材）
断面修復工, 水切り工

平面展開図



凡 例

補修工法	
D	断面修復工(左官工法)
W	水切り工
D0-0.00x0.00	補修工法 補修番号-補修幅x補修幅
W0-0.00	補修工法 補修番号-補修延長

- ※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

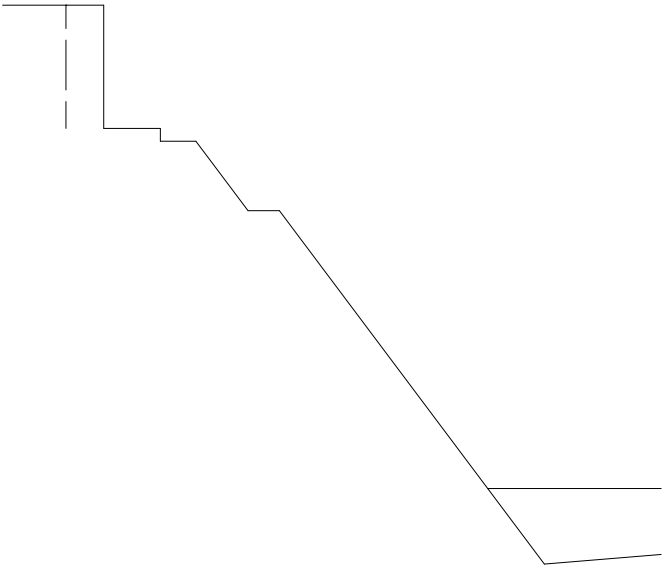
中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その1)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 10
三 原 市			

中倉橋 補修図（その2）

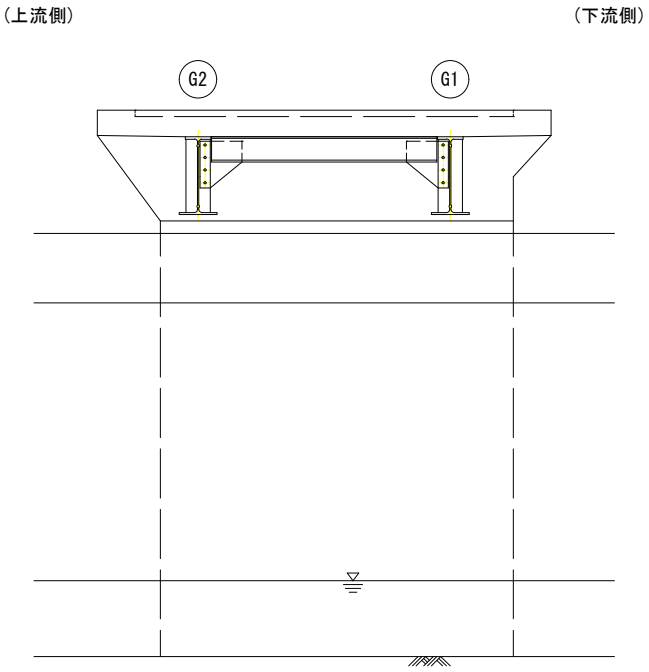
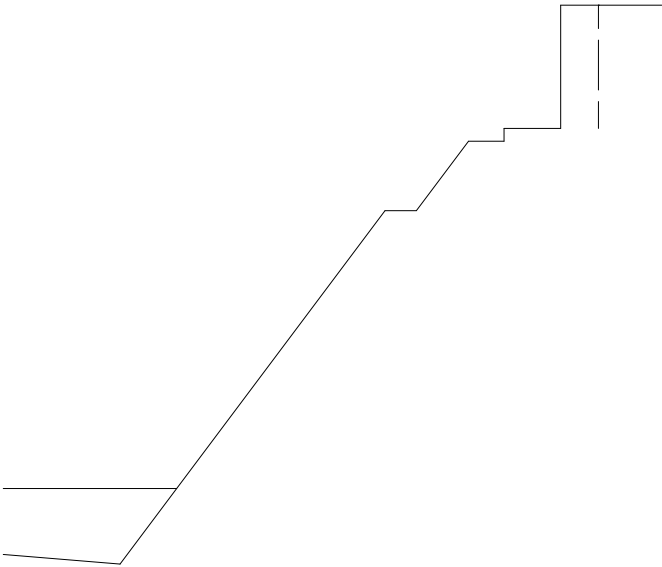
S=1:30

A1橋台
沓座モルタル打替工

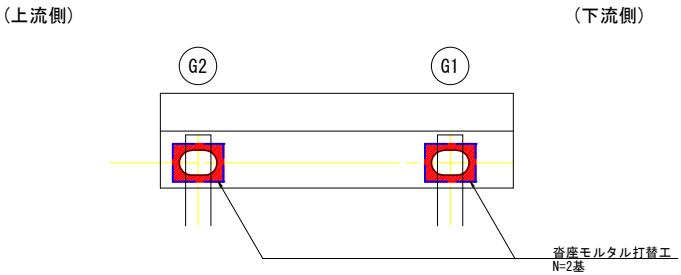
上流側側面図



下流側側面図

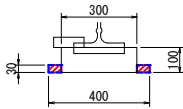


橋座平面図

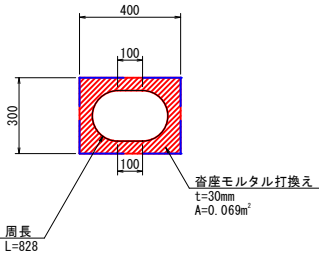


沓座モルタル詳細図（復旧） S=1:15

断面図
N=4基 (A1, A2各2基)



平面図



- ※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
- ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
- ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

中倉橋				
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)			
図 面 名	補修図(その2)			
場 所	三原市大和町			
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 10	
三 原 市				

中 倉 橋 補 修 図 (そ の 3)

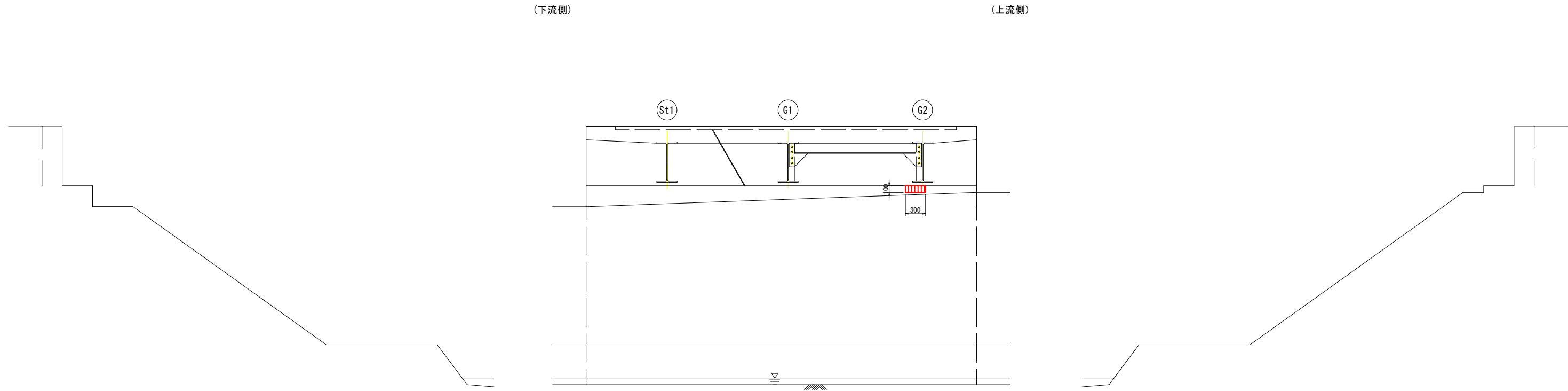
S=1:30

A2橋台
断面修復工, 沓座モルタル打替工

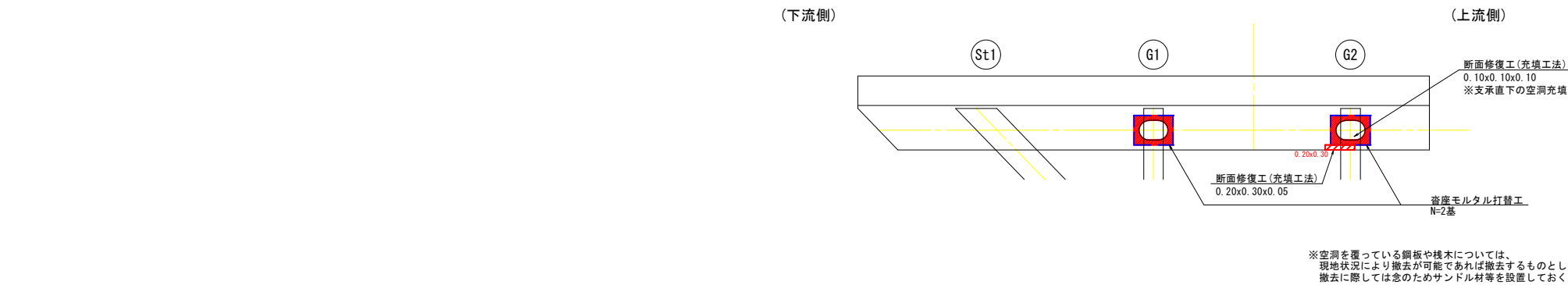
下流側側面図

正面図

上流側側面図



平面図



凡 例

補修工法		
D		断面修復工(充填工法)
D0-0.00x0.00		補修工法 補修番号-補修幅x補修幅

- ※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
- ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
- ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

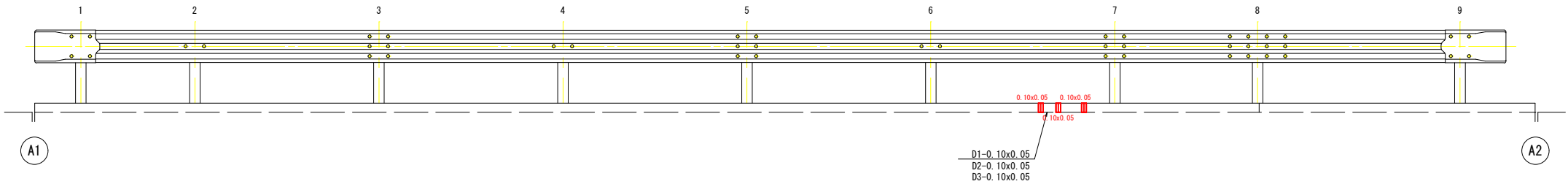
中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その3)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 10
三 原 市			

中倉橋 補修図（その4）

S=1:30

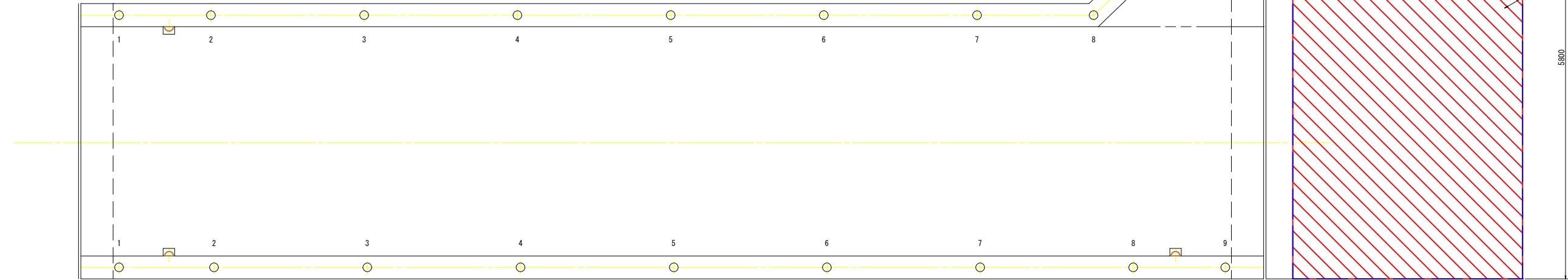
橋面
断面修復工, オーバーレイエ

下流側防護柵



平面図

(下流側)



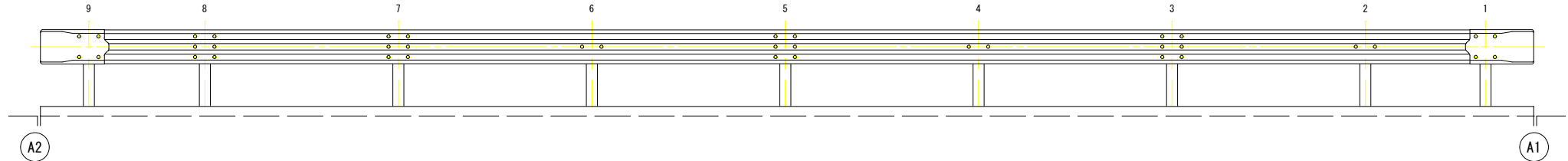
(上流側)

A1

A2

- ※ は、勾配2%で擦り付けた場合の擦り付け想定範囲を示す。
※ 路面の段差を解消することが目的である。現地状況により施工範囲を決定すること。

上流側防護柵



舗装工数量表

名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
オーバーレイエ	再生密粒度アスコン	m ²	0.522	

凡 例

補修工法	
D	断面修復工(左官工法)
D0-0.00x0.00	補修工法 補修番号-補修幅x補修幅

- ※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

中倉橋

工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その4)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 10
三 原 市			

S=1 : 30

平面展開図



- ※ 本図面は、現地の簡単な計測に基づき、作成したものである。
- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーレンは十分に行うこと。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.30kg/m²以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使時間内に使用し、可使時間を過ぎたものについては使用しないこと。

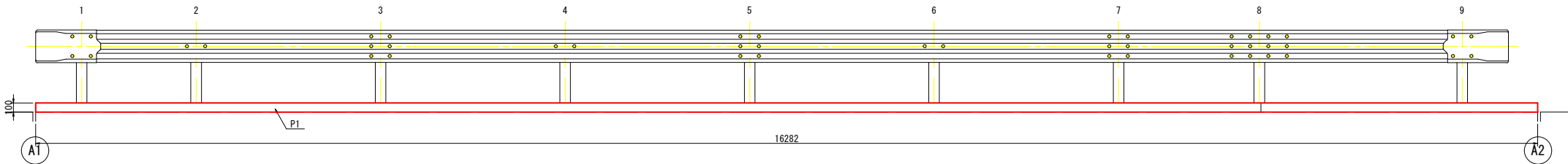
中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原尻及緑萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その5)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	6 / 10
三 原 市			

中倉橋 補修図（その6）

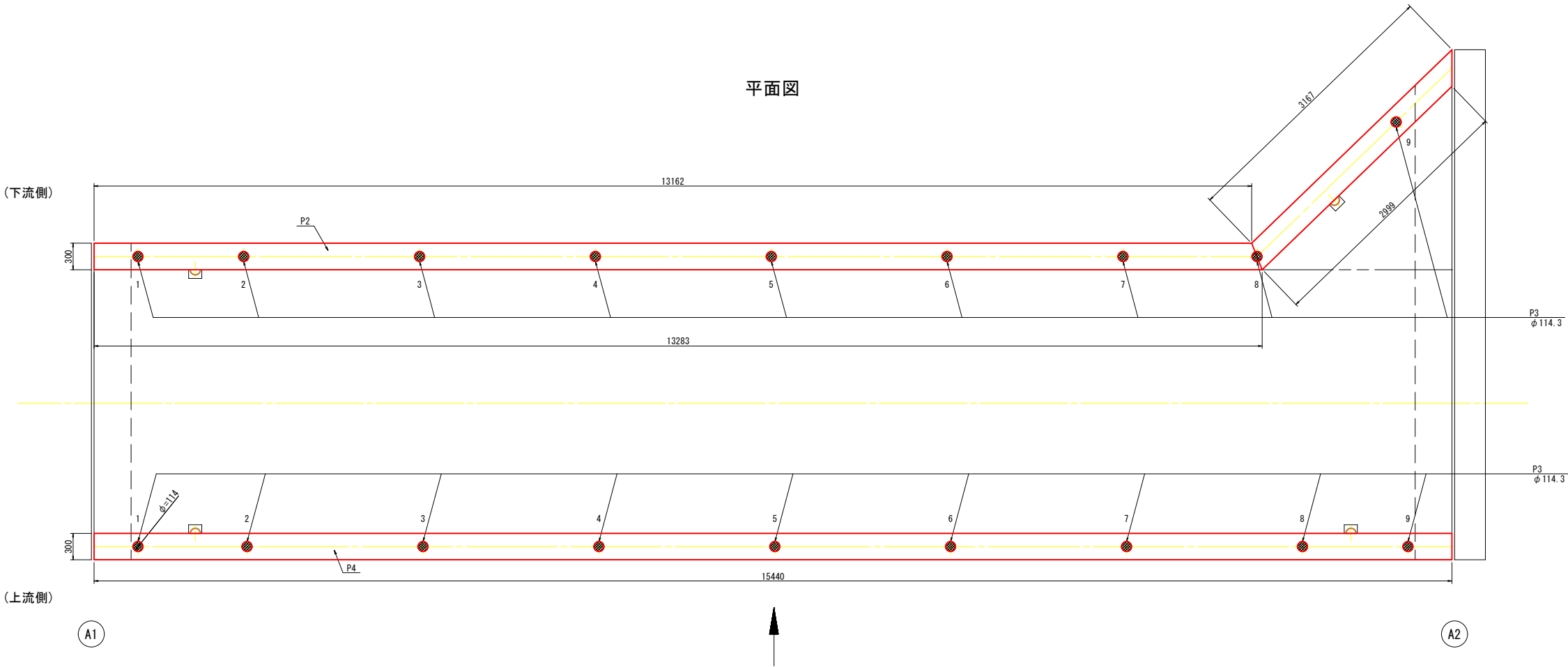
S=1:30

橋面
表面保護工

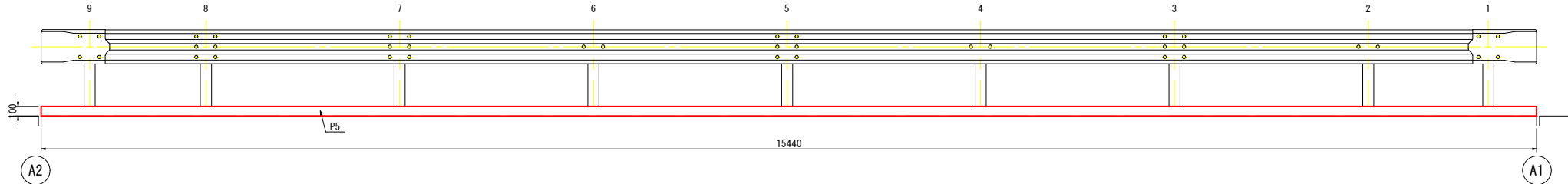
下流側防護柵



平面図



上流側防護柵



凡例

P		表面保護工
		設置面
P0		補修工法 補修番号

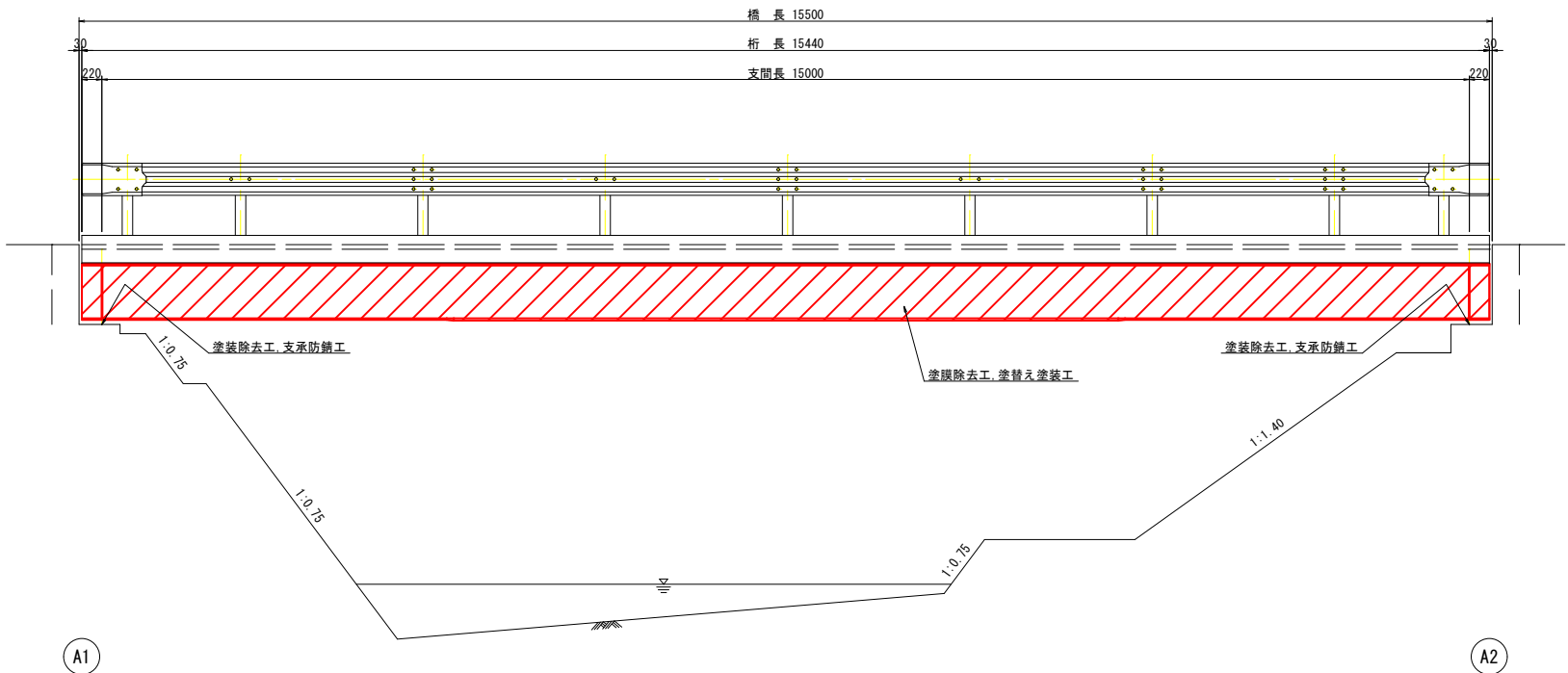
- ※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
※ 気温0℃以下では施工しないこと。
※ 標準塗布量：0.30kg/m²以上とすること。
※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その6)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 10
三 原 市			

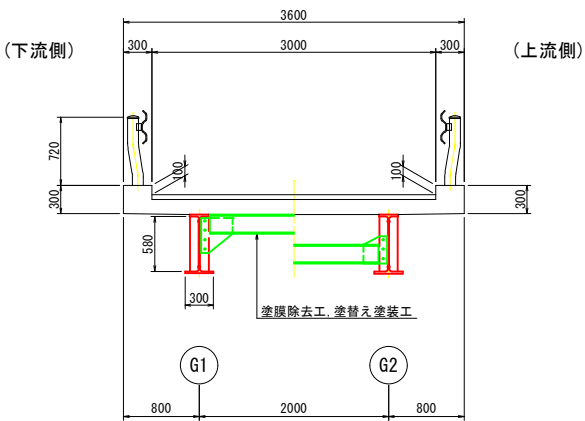
中倉橋 補修図(その7)
塗膜除去工, 塗替え塗装工, 支承防錆工

S=1:40

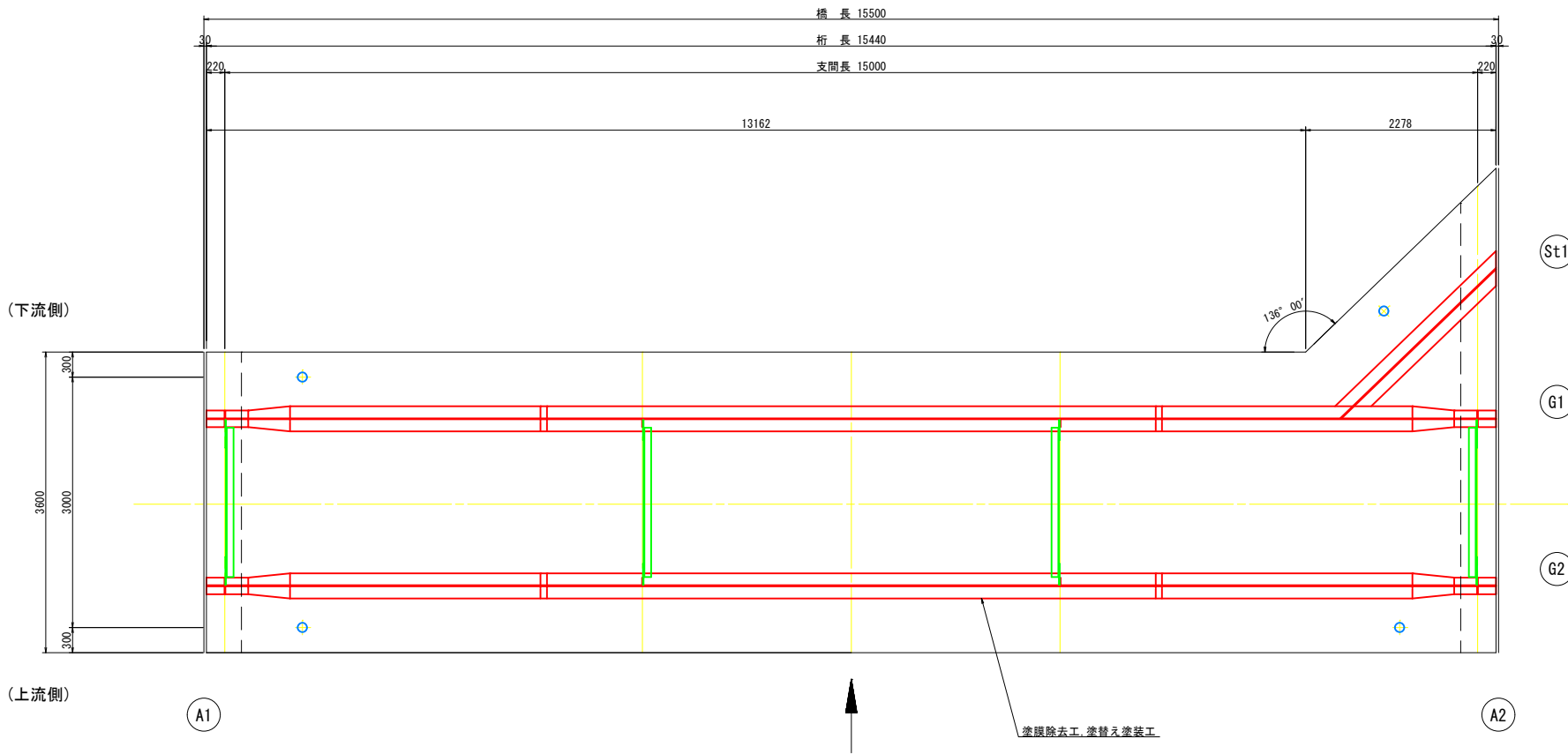
側面図



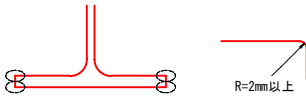
標準断面図



平面図

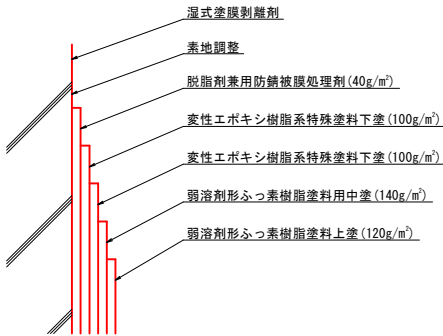


角部 曲面仕上げ 参考図



※ 部材の角部は膜厚の確保がしにくい箇所であるため、半径2R以上の曲面仕上げを行い、一般部と同等の塗膜性能を得ること。
(出典：鋼道路橋防食便覧 平成26年3月 II-48 より)

塗膜除去工, 塗替え塗装工, 支承防錆工
(参考図)



塗装仕様：銷転換型防食塗装

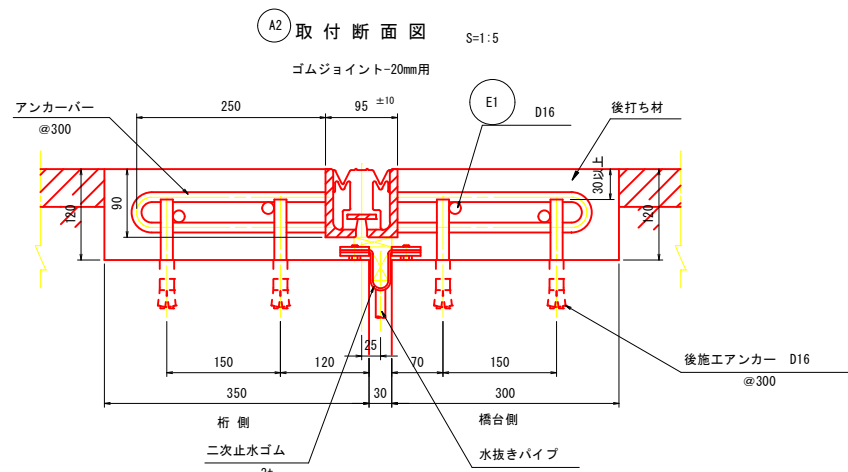
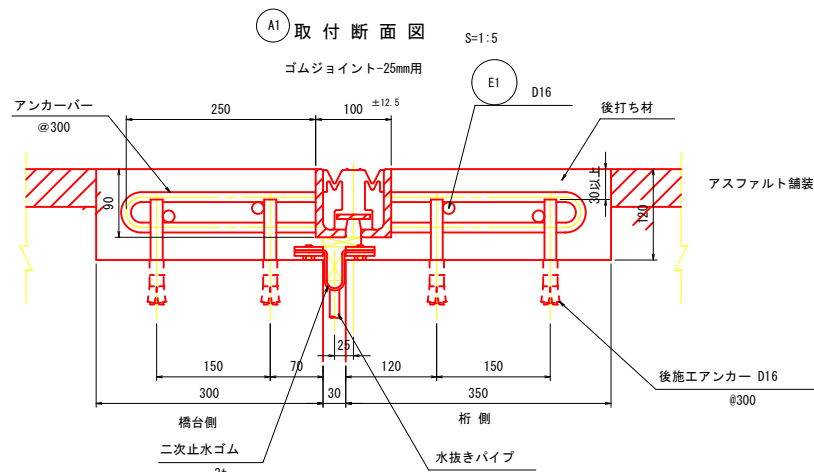
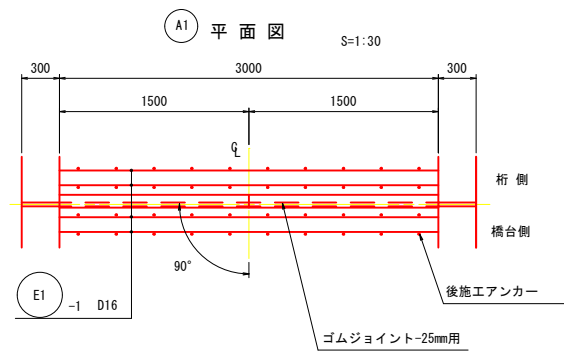
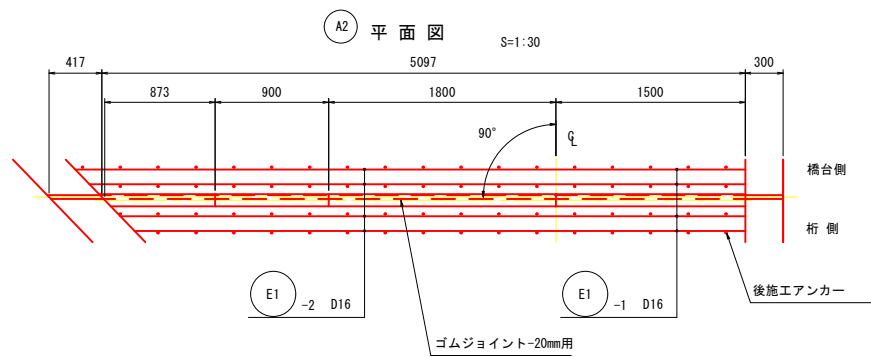
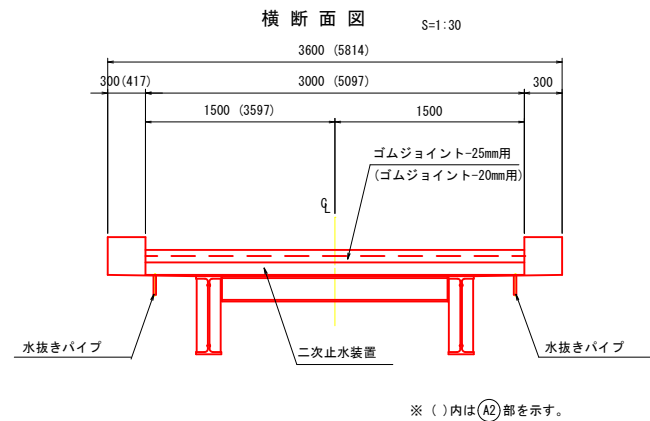
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)
素地調整	2 種	
表面処理	脱脂剤兼用防錆被膜処理剤	40
下 塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	100
下 塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	100
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120

※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

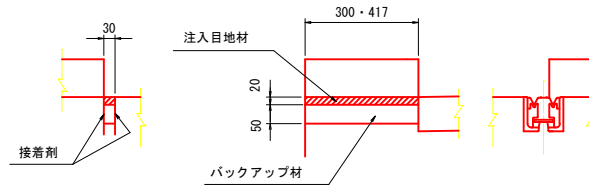
中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その7)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	8 / 10
三 原 市			

中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町線原賀茂線下橋外1橋)		
図 面 名	補修図(その8)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	9 / 10
三 原 市			

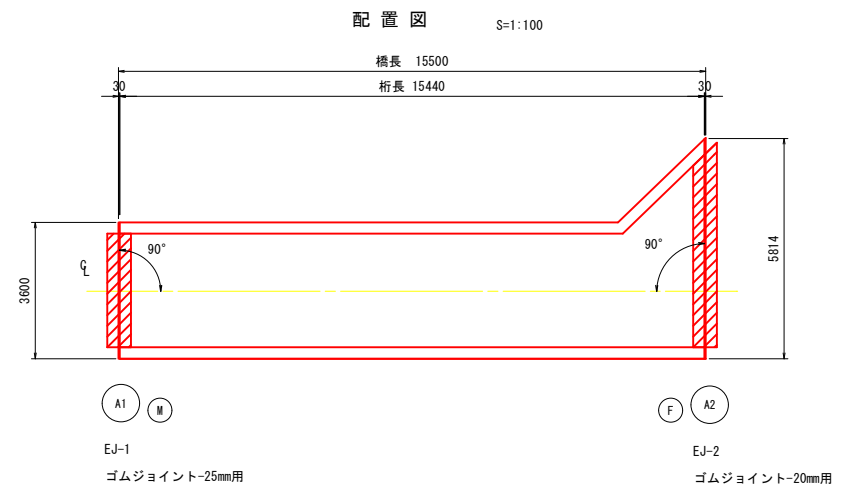
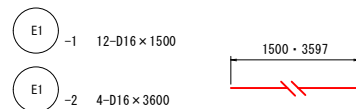
中倉橋 伸縮装置詳細図



地覆部止水工詳細図 S=1:10



補強鉄筋加工図



伸縮装置取付工事材料表

材 料 名	種 類	寸 法	数 量	摘 要
伸縮装置	ゴムジョイント-25mm用	100×90×1500	2 本	合計 3.0 m
	ゴムジョイント-20mm用	95×90×1800	1 本	合計 5.097 m
		95×90×1500	1 本	
		95×90×900	1 本	
		95×90×873	1 本	
後打ち材	超速硬コンクリート	650×120×8097	0.632 m ³	合計 50.6 kg
補強鉄筋	E1-1	12-D16×1500	28.1 kg	
	E1-2	4-D16×3600	22.5 kg	
後施工アンカー	D筋アンカー	D16	108 本	
注入目地材	シール材	30×20×1317	0.8 L	
プライマー			0.014 kg	
バックアップ材	ウレタンフォーム	60×50	1.317 m	
接 着 剤	合成ゴム系接着剤		0.020 kg	
二次止水材	ゴム樋帆布入り		8.097 m	排水ドレイン付
搬 送	コンクリート塊		0.632 m ³	
処 分	Co殻 (有筋)		0.632 m ³	

中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	伸縮装置詳細図		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	10 / 10
	三 原 市		

参 考 資 料

－橋梁補修工事（市道大和町萩原賀茂線萩下橋外1橋）－

総括情報表

頁0 -0001

変更回数 適用単価地区 単価適用日	0 48 三原市(大和) 00-05.01.01(0)	《凡例》 Co …コンクリート As …アスファルト DT …ダンプトラック BH …バックホウ CC …クローラクレーン TC …トラッククレーン RTC…ラフテレーンクレーン	
諸経費体系	1 公共(一般)		
	当世代	前世代	
工種 施工地域・工事場所区分 復興補正区分 週休補正区分 現場事務所等の貸与区分 I C T補正区分 冬期補正係数 緊急工事区分 前払金支出割合区分 契約保証区分	41 橋梁保全工事 04 一般交通影響有り(2) 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0 % 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)		
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

本工事費（萩下橋） 内訳表

頁0 -0002

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費（萩下橋）					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
舗装工	1	式			Y1G0304 レベル2
オーバーレイ工	1	式			Y1G030404 レベル3
表層(車道・路肩部) 再生密粒度アスコン13 平均t=1.5cm	1	式			Y1G03040405 レベル4
	23	m2			
表層(車道・路肩部) 平均幅員1.4m以上3.0m以下 1層当り平均仕上厚15mm	23	m2			SPK22040235 00 単第0 -0001 表
橋梁付属物工	1	式			Y1G0321 レベル2
伸縮継手工	1	式			Y1G032101 レベル3
ゴム製伸縮装置補修	1	式			Y1G03210103 レベル4
	41.4	m			

本工事費（萩下橋） 内訳表

頁0 -0003

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
伸縮継手装置設置工(補修) 普通型_2車線相当	41.4	m			SS000201 00 単第0 -0002 表
ゴム製伸縮装置	1	式			V0001 00 単第0 -0003 表
橋梁用防護柵工	1	式			Y1G032105 レベル3
橋梁用防護柵	4	m			Y1G03210501レベル4
防護柵設置工(Gr) レール設置 路側用_A・B・C種 手間+材料費 塗装品C(2.3×350×4330)	4	m			SS000125 00 単第0 -0004 表
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
支承補修	1	式			Y1G032405 レベル3
沓座モルタル補修 無収縮モルタル	0.002	m3			Y1G03240501レベル4
断面修復工（充填工）	0.002	m3			V1002 00 単第0 -0005 表

本工事費（萩下橋） 内訳表

頁0 -0004

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
プライマー工	0.1	m2			V1001 00 単第0 -0006 表
型枠 一般型枠 小型構造物	0.05	m2			SPK22040146 00 単第0 -0007 表
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2
防護柵撤去工	1	式			Y1G032701 レベル3
防護柵撤去(ガードレール)	4	m			Y1G03270101レベル4
防護柵設置工(Gr) レール撤去 路側用_A・B・C種(旧_Ap・Bp・Cp種)	4	m			SS000129 00 単第0 -0008 表
構造物取壊し工	1	式			Y1G032706 レベル3
コンクリートはつり 3cm以下	0.06	m2			Y1G03270605レベル4
コンクリートはつり 平均はつり厚3cm以下	0.06	m2			SPK22040108 00 単第0 -0009 表

本工事費（萩下橋） 内訳表

頁0 -0005

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
運搬処理工	1	式			Y1G032716 レベル3
殻運搬 Co殻（有筋）	2	m3			Y1G03271601レベル4
殻運搬 Co(鉄筋)構造物とりこわし DID区間無し 運搬距離3.3km以下(1.6km超)	2	m3			SPK22040142 00 単第0 -0010 表
殻処分 Co殻（有筋）	2	m3			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
再生資源化施設受入費 Co殻（有筋）	5.8	t			F9001 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
交通管理工	1	式			Y1G032821 レベル3
交通誘導警備員	1	式			Y1G03282101レベル4

本工事費（萩下橋） 内訳表

頁0 -0006

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
交通誘導警備員B					R0369 00
	14	人			
＊＊直接工事費＊＊ #0020計=支給品等(材料),無償貸付					
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊共通仮設費計＊＊					
＊＊純工事費＊＊					
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分 計算情報…… 対象額…… 率……					前払補正率…

本工事費（萩下橋） 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					
＊＊工事価格＊＊					
＊＊消費税相当額＊＊ 計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊工事費計＊＊					
＊＊契約保証費計＊＊					

施工単価表

頁0 -0008

表層(車道・路肩部)
平均幅員1.4m以上3.0m以下

SPK22040235

単第0 -0001 表

1層当り平均仕上厚15mm

1

m2 当り

機械構成比: 2.03%

労務構成比:

16.01%

材料構成比: 81.96%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,527.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>アスファルトフィニッシャ(ホイール型) 舗装幅1.4～3.0m 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	1.30%		アスファルトフィニッシャ [ホイール型] 舗装幅1.4～3.0m		KTPC00059 KTPT00059
<賃>振動ローラ(搭乗・コンバインド式) 質量3～4t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.26%		振動ローラ(舗装用) [搭乗式コンバインド型] 質量3～4t		KTPC00009 KTPT00009
<賃>タイヤローラ 質量3～4t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.24%		タイヤローラ 質量3～4t		KTPC00057 KTPT00057
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	5.44%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	3.73%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
運転手(特殊)	3.72%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
土木一般世話役	1.28%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

頁0 -0009

表層(車道・路肩部)
平均幅員1.4m以上3.0m以下
機械構成比: 2.03%

SPK22040235
1層当り平均仕上厚15mm
労務構成比: 16.01%

材料構成比: 81.96%

市場単価構成比: 0.00%

単第0 -0001 表

1
標準単価:

m2 当り
1,527.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生加熱アスファルト混合物 再生密粒度(13)	79.08%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPC00024 TTPT00284
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用	2.57%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用		TTPC00027 TTPT00027
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	0.28%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=3 C=7 G=1 I=1	平均幅員1.4m以上3.0m以下 再生密粒度アスファルト混合物(13) - -(全ての費用)		B=15 E=1 H=1	1層当り平均仕上り厚(mm) PK-4 -	
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):15.000(mm)					

施工単価表

頁0 -0010

伸縮継手装置設置工(補修)
普通型_2車線相当

SS000201

單第0 -0002 表

1 m 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0011

ゴム製伸縮装置

V0001

單第0 -0003 表

1

式 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0012

**防護柵設置工(Gr) レール設置
路側用_A・B・C種 手間+材料費**

SS000125

單第0 -0004 表

塗装品C(2.3×350×4330)

m

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0013

断面修復工（充填工）

V1002

單第0 -0005 表

I

m3

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0014

プライマー工

V1001

單第0 -0006 表

10

m2

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0015

型枠
一般型枠
機械構成比: 0.00%

SPK22040146

単第0 -0007 表

小型構造物
労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

1
標準単価:

m2 当り
7,866.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	45.15%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	30.47%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	11.34%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=2 小型構造物		

施工単価表

頁0 -0016

防護柵設置工(Gr) レール撤去
路側用_A・B・C種(旧_Ap・Bp・Cp種)

SS000129

單第0 -0008 表

1 m 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0017

コンクリートはつり
平均はつり厚3cm以下

SPK22040108

単第0 -0009 表

1

m2 当り

機械構成比: 1.67% 労務構成比: 94.57% 材料構成比: 3.76% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 4,570.80000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<貸>空気圧縮機(エンジンコンプレッサ) 吐出量5m3/min 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	1.63%		空気圧縮機 [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型] 5m3/min		KTPC00030 KTPT00030
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	38.41%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	31.66%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	21.75%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	3.66%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		EP001

施工単価表

頁0 -0018

コンクリートはつり

SPK22040108

單第0 -0009 表

平均はつり厚3cm以下

1

m2 当り

機械構成比: 1.67%

勞務構成比：

94.57%

材料構成比:

3.76%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価：

4,570.80000

[illegible]

施工単価表

頁0 -0019

殻運搬
Co(鉄筋)構造物とりこわし
機械構成比: 43.25% 労務構成比: 42.18% 材料構成比: 14.57% 市場単価構成比: 0.00%

SPK22040142
DID区間無し 運搬距離3.3km以下(1.6km超)

単第0 -0010 表
1
標準単価: 1,251.20000

m3 当り
1,251.20000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	43.25%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	42.18%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	14.57%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 Co(鉄筋)構造物とりこわし C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=14 運搬距離3.3km以下(1.6km超)		

総括情報表

頁0 -0001

変更回数 適用単価地区 単価適用日	0 48 三原市(大和) 00-05.01.01(0)	《凡例》 Co …コンクリート As …アスファルト DT …ダンプトラック BH …バックホウ CC …クローラクレーン TC …トラッククレーン RTC…ラフテレーンクレーン	
諸経費体系	1 公共(一般)		
	当世代	前世代	
工種 施工地域・工事場所区分 復興補正区分 週休補正区分 現場事務所等の貸与区分 I C T補正区分 冬期補正係数 緊急工事区分 前払金支出割合区分 契約保証区分	41 橋梁保全工事 04 一般交通影響有り(2) 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0 % 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)		
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0002

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費（中倉橋）					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
舗装工	1	式			Y1G0304 レベル2
オーバーレイ工	1	式			Y1G030404 レベル3
表層(車道・路肩部) 再生密粒度アスコン(13) 平均t=3cm	17	m2			Y1G03040405 レベル4
表層(車道・路肩部) 平均幅員1.4m以上3.0m以下 1層当り平均仕上厚30mm	17	m2			SPK22040235 00 単第0 -0001 表
橋梁付属物工	1	式			Y1G0321 レベル2
伸縮継手工	1	式			Y1G032101 レベル3
ゴム製伸縮装置補修	8.1	m			Y1G03210103 レベル4

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0003

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
伸縮継手装置設置工(補修) 普通型_2車線相当	8.1	m			SS000201 00 単第0 -0002 表
ゴム製伸縮装置	1	式			V0001 00 単第0 -0003 表
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
断面修復工	1	式			Y1G032405 レベル3
左官工法 ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有り	1	式			Y1G03240501 レベル4
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.32m3	1	構造物			S1020041 00 単第0 -0004 表
充填工法 無収縮モルタル	0.004	m3			Y4999 レベル4
断面修復工（充填工）	0.004	m3			V1002 00 単第0 -0005 表
プライマー工	0.2	m2			V1001 00 単第0 -0006 表

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0004

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
型枠 一般型枠 鉄筋・無筋構造物	0.03	m2			SPK22040146 00 単第0 -0007 表
支承補修	1	式			Y1G032405 レベル3
沓座モルタル補修 無収縮モルタル	0.01	m3			Y1G03240501レベル4
断面修復工（充填工）	0.01	m3			V1002 00 単第0 -0005 表
プライマー工	0.2	m2			V1001 00 単第0 -0006 表
型枠 一般型枠 小型構造物	0.4	m2			SPK22040146 00 単第0 -0008 表
表面含浸工	1	式			Y1G032406 レベル3
下地処理	75	m2			Y1G03240601レベル4
下地処理 サンダーケレン	75	m2			F0002 00

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0005

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
表面含浸工 けい酸塩系表面含浸材（固化型）	75	m2			Y4999 レベル4
けい酸塩系表面含浸材（固化型） Osmo-KK相当	75	m2			F10003 00 材工共
現場塗装工	1	式			Y1G0325 レベル2
塗膜剥離工	1	式			Y3999 レベル3
湿式塗膜剥離工	149	m2			Y4999 レベル4
塗膜剥離剤散布・塗膜除去 鋼桁構造・箱桁構造 時間的制約無	149	m2			F10004 00 機労
塗膜剥離剤 中性型水系剥離剤	159	kg			F10005 00
廃材の回収・積込 時間的制約無	149	m2			F10006 00 労
産業廃棄物収集運搬 三原市～処分先	1	車			F10007 00

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0006

費目・工種・施工名称など 【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる	数量	単位	単価	金額	備考
					#0041
産業廃棄物焼却溶融処分 特管汚泥（橋梁塗膜） 重量100kg以上	235	kg			F10008 00
橋梁塗装工	1	式			Y1G032501 レベル3
素地調整 2種ケレン	75	m2			Y1G03250101レベル4
塗替塗装 清掃・水洗い	75	m2			SDT00029 00
					単第0 -0009 表
塗替塗装 素地調整	75	m2			SDT00029 00
					単第0 -0010 表
塗替塗装 研削材及びケレンかす回収・積込工	75	m2			SDT00029 00
					単第0 -0011 表
表面被膜処理工	75	m2			Y4999 レベル4
表面被膜処理工 脱脂材兼用防錆被膜処理剤 全面塗り	75	m2			F10009 00

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0007

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
下塗 変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗 下塗2回	149	m2			Y1G03250102レベル4
防錆塗装工・下塗 変性エポキシ樹脂系特殊塗料	149	m2			F10010 00
中塗 弱溶剤形フッ素樹脂塗料用中塗	75	m2			Y1G03250103レベル4
防錆塗装工・中塗 弱溶剤形フッ素樹脂塗料 淡彩色	75	m2			F10011 00
上塗 弱溶剤形フッ素樹脂塗料用	75	m2			Y1G03250104レベル4
防錆塗装工・上塗 弱溶剤形フッ素樹脂塗料 淡彩色	75	m2			F10012 00
水切設置工	1	式			Y1G032404 レベル3
水切設置工 後付け型水切材	32	m			Y1G03240401レベル4
水切り設置 コンクリート構造物用水切り材	32	m			V1003 00
					単第0 -0012 表

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0008

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2
運搬処理工	1	式			Y1G032716 レベル3
殻運搬 Co殻（有筋）	1	m3			Y1G03271601レベル4
殻運搬 Co(鉄筋)構造物とりこわし DID区間無し 運搬距離5.7km以下(3.3km超)	1	m3			SPK22040142 00 単第0 -0013 表
殻処分 Co殻（有筋）	1	m3			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
再生資源化施設受入費 Co殻（有筋）	2.4	t			F9001 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
足場工	1	式			Y1G032801 レベル3

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0009

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
吊足場 【安全ネットの有無】					Y1G03240502レベル4
	58	m2			
足場工（床版補強工） 桁高1．5m未満					S3030011 00
	58	m2			単第0 -0014 表
足場工（朝顔）（床版補強工） 両側朝顔					S3030013 00
	58	m 2			単第0 -0015 表
防護工（床版補強工） シート張防護工 両側朝顔					S3030015 00
	58	m 2			単第0 -0016 表
湿式塗膜剥離剤工用養生設備工					Y4999 レベル4
	1	式			
剥離剤工用養生設備 A=58m2					W0001
	1	式			
交通管理工					Y1G032821 レベル3
	1	式			
交通誘導警備員					Y1G03282101レベル4
	1	式			
交通誘導警備員B					R0369 00
	30	人			

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0010

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
※※直接工事費※※ #0020計=支給品等(材料),無償貸付					
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額……… 率……………					
※※共通仮設費計※※					
※※純工事費※※					
現場管理費 計算情報…… 対象額……… 率……………					
※※工事原価※※					
一般管理費率分 計算情報…… 対象額……… 率……………					前払補正率…
契約保証費 計算情報…… 対象額……… 率……………					当初請対額 当初対象額

本工事費（中倉橋） 内訳表

頁0 -0011

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
一般管理費計					
※※工事価格※※					
※※消費税相当額※※ 計算情報…… 対象額……… 率……………					
※※工事費計※※					
※※契約保証費計※※					

施工単価表

頁0 -0012

表層(車道・路肩部)
平均幅員1.4m以上3.0m以下

SPK22040235

単第0 -0001 表

1層当り平均仕上厚30mm

1

m2 当り

機械構成比: 2.03%

労務構成比:

16.01%

材料構成比:

81.96%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

1,527.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>アスファルトフィニッシャ(ホイール型) 舗装幅1.4～3.0m 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	1.30%		アスファルトフィニッシャ [ホイール型] 舗装幅1.4～3.0m		KTPC00059 KTPT00059
<賃>振動ローラ(搭乗・コンバインド式) 質量3～4t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.26%		振動ローラ(舗装用) [搭乗式コンバインド型] 質量3～4t		KTPC00009 KTPT00009
<賃>タイヤローラ 質量3～4t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.24%		タイヤローラ 質量3～4t		KTPC00057 KTPT00057
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	5.44%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	3.73%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
運転手(特殊)	3.72%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
土木一般世話役	1.28%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

頁0 -0013

表層(車道・路肩部)
平均幅員1.4m以上3.0m以下
機械構成比: 2.03%

SPK22040235
1層当り平均仕上厚30mm
労務構成比: 16.01%

材料構成比: 81.96%

市場単価構成比: 0.00%

単第0 -0001 表

1
標準単価:

m2 当り
1,527.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生加熱アスファルト混合物 再生密粒度(13)	79.08%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPC00024 TTPT00284
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用	2.57%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用		TTPC00027 TTPT00027
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	0.28%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=3 C=7 G=1 I=1	平均幅員1.4m以上3.0m以下 再生密粒度アスファルト混合物(13) - -(全ての費用)		B=30 E=1 H=1	1層当り平均仕上り厚(mm) PK-4 -	
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):30.000(mm)					

施工単価表

頁0 -0014

伸縮継手装置設置工(補修)

SS000201

單第0 -0002 表

普通型 2車線相当

m

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0015

ゴム製伸縮装置

V0001

單第0 -0003 表

1

式 当り

[illegible]

施工単価表

断面修復工(左官工法)
(鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)

S1020041
修復延べ体積0.32m3

単第0 -0004 表

1
構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	7.360	人			
特殊作業員	12.160	人			
普通作業員	8.000	人			
ポリマーセメントモルタル 左官工法用	0.378	m3			
諸雑費	11	%			#09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=0.32 1構造物当り修復延べ体積(m3/構造物) C=0.32 断面修復材の設計数量(m3/構造物)			B=1 【F】 断面修復材(m3)		

施工単価表

頁0 -0017

断面修復工（充填工）

V1002

單第0 -0005 表

1

m3

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0018

プライマー工

V1001

單第0 -0006 表

10

m2

当り

[illegible]

施工単価表

型枠
一般型枠
機械構成比: 0.00%

SPK22040146
鉄筋・無筋構造物
労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

単第0 -0007 表

1
標準単価:

m2 当り
8,707.90000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	47.44%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	24.80%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	9.07%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=1 鉄筋・無筋構造物		

施工単価表

型枠
一般型枠
機械構成比: 0.00%

SPK22040146

単第0 -0008 表

小型構造物
労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

1
標準単価:

m2 当り
7,866.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	45.15%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	30.47%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	11.34%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=2 小型構造物		

施工単価表

頁0 -0021

**塗替塗装
清掃・水洗い**

SDT00029

單第0 -0009 表

m2 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0022

塗替塗裝 素地調整

SDT00029

單第0 -0010 表

m2

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0023

塗替塗装

SDT00029

單第0 -0011 表

研削材及びケレンかす回収・積込工

m2 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0024

水切り設置

V1003

單第0 -0012 表

コンクリート構造物用水切り材

100

m

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0025

殻運搬
Co(鉄筋)構造物とりこわし
機械構成比: 43.25% 労務構成比: 42.18% 材料構成比: 14.57% 市場単価構成比: 0.00%

SPK22040142
DID区間無し 運搬距離5.7km以下(3.3km超)

単第0 -0013 表
1
標準単価: 1,491.80000

m3 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	43.25%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	42.18%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	14.57%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 Co(鉄筋)構造物とりこわし C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=25 運搬距離5.7km以下(3.3km超)		

施工単価表

頁0 -0026

足場工（床版補強工）

S3030011

單第0 -0014 表

桁高 1.5m 未満

1

m2

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0027

足場工（朝顔）（床版補強工）

S3030013

單第0 -0015 表

m 2 当り

兩側朝顔

[illegible]

施工単価表

頁0 -0028

防護工（床版補強工）

S3030015

單第0 -0016 表

シート張防護工

兩側朝顔

1

m 2

当り

[illegible]

1.1 補修数量総括表

橋梁名：萩下橋

レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格	単位	数量	備考
橋梁保全工事	構造物補修工	断面修復工 充填工法 沓座モルタル補修	充填工法	セメントモルタル(無収縮モルタル)	m ³	0.002	
			プライマー工		m ²	0.1	
			型枠	一般型枠 小型構造物	m ²	0.05	
			コンクリートはつり	3cm以下	m ²	-	構造物取壊し工にて計上
			殻運搬	コンクリート構造物	m ³	-	運搬処理工にて計上
			殻処分	Co殻（有筋）	m ³	-	運搬処理工にて計上
					t	-	運搬処理工にて計上
	舗装工	オーバーレイ工	表層	再生密粒度アスコン13	m ²	23.0	
	橋梁付属物工	伸縮装置工	ゴム製伸縮装置	荷重支持型 ゴムジョイント-35mm用	m	6.8	車道部
				荷重支持型 ゴムジョイント-20mm用	m	8.3	車道部
				荷重支持型 ゴムジョイント-20mm用	m	26.3	車道部 縦目地
				伸縮装置設置延長（補修）	m	41.4	
			二次止水材	ゴム樋帆布入り	m	41.4	
			後打ちコンクリート	超速硬コンクリート	m ³	2.3	
			補強鉄筋	D16	kg	227	
			コンクリートアンカー	D16用	本	543	
			シール材	シリコーン系	ℓ	1.6	地覆部
			プライマー	ウレタン樹脂系プライマー	kg	0.02	
			バックアップ材	ウレタンフォーム	ℓ	7.9	
			接着剤	合成ゴム系接着剤	kg	0.03	
			既設伸縮装置撤去	鋼製ジョイント(縦目地部) ゴムジョイント(横目地部)	m	41.4	
			殻運搬	コンクリート構造物	m ³	-	運搬処理工にて計上
			殻処分	がれき類	m ³	-	運搬処理工にて計上
					t	-	運搬処理工にて計上

橋梁名： 萩下橋

[illegible]

1.2 断面修復工（充填工法）

1.2.1 充填工法（セメントモルタル（無収縮モルタル））

$$V = 0.079 \times 0.030 = 0.002 \text{ m}^3$$

1.2.2 プライマーエ

$$A = 0.079 + 1.028 \times 0.030 = 0.110 \text{ m}^2$$

1.2.3 型枠（一般型枠 小型構造物）

$$A = (0.300 + 0.500) \times 2 \times 0.030 = 0.048 \text{ m}^2$$

1.2.4 コンクリートはつり（3cm以下）

$$A = 0.050 \times 1.265 = 0.063 \text{ m}^2$$

1.2.5 殻運搬

（1）コンクリート構造物

$$V = 1/2 \times 0.063 \times 0.030 = 0.001 \text{ m}^3$$

1.2.6 殻処分（Co殻（有筋）に含む）

$$V = 0.001 = 0.001 \text{ m}^3$$

$$W = 0.001 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.002 \text{ t}$$

1.5 舗装工

1.5.1 オーバーレイ工

$$A1 = 1.500 \times 7.000 = 10.500 \text{ m}^2$$

$$A2 = 1.500 \times 8.300 = 12.450 \text{ m}^2$$

$$\Sigma A = 22.950 \text{ m}^2$$

1.6 伸縮装置工（荷重支持型ジョイント）

1.6.1 ゴム製伸縮装置

（１） 荷重支持型 ゴムジョイント-35mm用 （車道部）

$$L = 6.841 = 6.841 \text{ m}$$

（２） 荷重支持型 ゴムジョイント-20mm用 （車道部）

$$L = 8.282 + 26.340 = 34.622 \text{ m}$$
$$\Sigma L = 41.463 \text{ m}$$

1.6.2 二次止水材（ゴム樋帆布入り）

$$L = 41.463 = 41.463 \text{ m}$$

1.6.3 後打ちコンクリート（超速硬コンクリート）

$$\begin{array}{l} \text{A1} \\ v1 = 6.841 \times 0.700 \times 0.120 = 0.575 \text{ m}^3 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{A2} \\ v2 = 8.282 \times 0.700 \times 0.120 = 0.696 \text{ m}^3 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{縦目地部} \\ v3 = 26.340 \times 0.400 \times 0.100 = 1.054 \text{ m}^3 \\ \Sigma V = 2.325 \text{ m}^3 \end{array}$$

1.6.4 補強鉄筋（D16）

$$W = 42.7 + 51.6 + 133.1 = 227 \text{ kg}$$

1.6.5 コンクリートアンカー（D16用）

$$N = 90 + 109 + 344 = 543 \text{ 本}$$

1.6.6 シール材（シリコーン系）

$$L = 0.882 + 0.875 = 1.757 \text{ m}$$

$$V = 1.757 \times 0.045 \times 0.020 \times 1000 = 1.6 \text{ l}$$

1.6.7 プライマー (ウレタン樹脂系プライマー)

$$w1 = (0.020 \times 2 + 0.045) \times 0.882 \times 0.15 \text{ kg} = 0.011 \text{ kg}$$

$$w2 = (0.020 \times 2 + 0.045) \times 0.875 \times 0.15 \text{ kg} = 0.011 \text{ kg}$$

$$\Sigma W = 0.022 \text{ kg}$$

1.6.8 バックアップ材 (ウレタンフォーム 90×50mm)

$$L = 0.882 + 0.875 = 1.757 \text{ m}$$

$$V = 1.757 \times 0.090 \times 0.050 \times 1000 \text{ ㏍/m}^3 = 7.907 \text{ ㏍}$$

1.6.9 接着剤 (合成ゴム系接着剤)

$$w1 = 0.050 \times 2 \times 0.882 \times 0.15 \text{ kg} = 0.013 \text{ kg}$$

$$w2 = 0.050 \times 2 \times 0.875 \times 0.15 \text{ kg} = 0.013 \text{ kg}$$

$$\Sigma W = 0.026 \text{ kg}$$

1.6.10 既設伸縮装置撤去

(1) 鋼製ジョイント (横目地部)

A1

車道部

$$L1 = 6.841 = 6.841 \text{ m}$$

A2

車道部

$$L2 = 8.282 = 8.282 \text{ m}$$

(2) ゴムジョイント (縦目地部)

車道部

$$L3 = 26.340 = 26.340 \text{ m}$$

$$\Sigma L = 41.463 \text{ m}$$

1.6.11 殻運搬

(1) コンクリート構造物

A1

$$v1 = 6.841 \times 0.700 \times 0.120 = 0.575 \text{ m}^3$$

A2

$$v2 = 8.282 \times 0.700 \times 0.120 = 0.696 \text{ m}^3$$

縦目地部

$$v3 = 26.340 \times 0.400 \times 0.100 = 1.054 \text{ m}^3$$

$$\Sigma V = 2.325 \text{ m}^3$$

1.6.12 殻処分 (Co殻 (有筋))

$$V = 2.325 = 2.325 \text{ m}^3$$

$$W = 2.325 \times 2.50 \text{ t/m}^3 = 5.813 \text{ t}$$

1.7 部材部分取替工（防護柵補修工）

1.7.1 部材設置（C種 ガードレール）

（1）設置延長

$$L = 3.721 = 3.721 \text{ m}$$

（2）4mビーム

$$N = 1 = 1 \text{ 枚}$$

1.7.2 部材部分撤去

（1）路側用 A・B・C種 ガードレール

$$L = 3.721 = 3.721 \text{ m}$$

1.8 構造物取壊し工

1.8.1 コンクリートはつり

(1) 3cm以下

1) 沓座モルタル補修工

$$A = 0.063 = 0.063 \text{ m}^2$$

1.9 運搬処理工

1.9.1 殻運搬

(1) コンクリート構造物

1) 沓座モルタル補修工

$$V = 0.001 = 0.001 \text{ m}^3$$

2) 伸縮装置工（荷重支持型ジョイント）

$$V = 2.325 \quad \begin{array}{r} = 2.325 \text{ m}^3 \\ \hline \Sigma V1 = 2.326 \text{ m}^3 \end{array}$$

1.9.2 殻処分（Co殻（有筋））

$$V = 2.326 = 2.326 \text{ m}^3$$

$$W = 0.001 \times 2.35 \text{ t/m}^3 + 2.325 \times 2.50 \text{ t/m}^3 = 5.815 \text{ t}$$

1.10 防護柵撤去工

1.10.1 防護柵撤去

(1) 部材部分撤去

1) 路側用 A・B・C種 ガードレール

$$L = 3.721 \quad = 3.721 \text{ m}$$

橋梁名：萩下橋

種 別	細 別 ・ 規 格	単位	全数量	能力/組	組数	組数能力	突働日数 (日)	供用係数	作業日数 (日)	出 典	備 考
伸縮装置工	伸縮装置	m	41.5	7.2	1	7.2	5.8	1.8	11	土木工事標準積算基準書(共通編)令和4年8月/広島県I-294	
	合計日数	式	1				5.8		11		
舗装工	オーバーレイ	m2	23.0	1,300.0	1	1,300.0	0.1	1.8	1	土木工事標準積算基準書(共通編)令和4年8月/広島県I-235	
	合計日数	式	1				0.1		1		
部材部分取替工 (防護柵補修工)	部材撤去 ガードレール	m	3.7	200.0	1	200.0	0.1	1.8	1	土木工事標準積算基準書(共通編)令和4年8月/広島県I-285	
	部材設置 ガードレール	m	3.7	100.0	1	100.0	0.1	1.8	1	土木工事標準積算基準書(共通編)令和4年8月/広島県I-285	
	合計日数	式	1				0.2		2		
合計							6.1			7*2人/日=14人	

1.1 補修数量総括表

橋梁名：中倉橋

レベル1 工事区分	レベル2 工 種	レベル3 種 別	レベル4 細 別	レベル5 規 格	単 位	数 量	備 考
橋梁保全工事	構造物補修工	断面修復工 左官工法	左官工法	ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・防錆処理を含む	m ³	0.32	
				材料ロス	m ³	0.06	ロス率：18%
				左官工法 1構造物当り延べ体積	m ³	0.38	
			殻運搬	コンクリート構造物	m ³	-	運搬処理工にて計上
			殻処分	Co殻（有筋）	m ³	-	運搬処理工にて計上
					t	-	運搬処理工にて計上
		断面修復工 充填工法	充填工法	セメントモルタル（無収縮モルタル）	m ³	0.004	
				プライマー工	m ²	0.2	
				型枠工	m ²	0.03	
			殻運搬	コンクリート構造物	m ³	-	運搬処理工にて計上
			殻処分	Co殻（有筋）	m ³	-	運搬処理工にて計上
					t	-	運搬処理工にて計上
		断面修復工 充填工法 沓座モルタル補修	充填工法	セメントモルタル（無収縮モルタル）	m ³	0.01	
				プライマー工	m ²	0.4	
			型枠	一般型枠 小型構造物	m ²	0.2	
	橋梁補修工	表面保護工 表面含浸工	下地処理	サンダーケレン	m ²	74.7	
			含浸材塗布工	固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材	m ²	74.7	
			含浸材	固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材	kg	22.4	標準使用量：0.30kg/m ²
				材料ロス	kg	2.2	ロス率：10%
	現場塗装工	塗膜除去工 湿式塗膜剥離剤	湿式塗膜剥離工	湿式塗膜剥離剤工法	m ²	149.0	2回施工を想定
			湿式塗膜剥離剤	湿式塗膜剥離剤工法	kg	149.0	標準塗布量：1.0kg/m ²
				材料ロス	kg	10.4	ロス率：7%
				材料合計	kg	159.4	
			廃材の回収・積込		m ²	149.0	
			剥離剤および塗料かす運搬工		回	1	

橋梁名： 中倉橋

レベル1 工事区分	レベル2 工 種	レベル3 種 別	レベル4 細 別	レベル5 規 格	単 位	数 量	備 考
橋梁保全工事	現場塗装工	塗膜除去工 湿式塗膜剥離剤	有害物質含有廃塗膜処分		kg	235	
		橋梁塗装工 塗替え塗装 支承防錆 錆転換型防食塗装	素地調整	2種ケレン	m ²	74.5	
			表面処理	脱脂剤兼用防錆被膜処理剤	m ²	74.5	標準塗布量：40g/m ²
			下塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	m ²	74.5	標準塗布量：100g/m ²
			下塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	m ²	74.5	標準塗布量：100g/m ²
			中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	m ²	74.5	標準塗布量：140g/m ²
			上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	m ²	74.5	標準塗布量：120g/m ²
	舗装工	オーバーレイ工	表層	再生密粒度アスコン13	m ²	17.4	
	橋梁付属物工	伸縮装置工	ゴム製伸縮装置	荷重支持型 ゴムジョイント-25mm用	m	3.0	車道部
				荷重支持型 ゴムジョイント-20mm用	m	5.1	車道部
				伸縮装置設置延長（補修）	m	8.1	
			二次止水材	ゴム樋帆布入り	m	8.1	
			後打ちコンクリート	超速硬コンクリート	m ³	0.6	
			補強鉄筋	D16	kg	51	
			コンクリートアンカー	D16用	本	108	
			シール材	シリコーン系	ℓ	0.8	地覆部
			プライマー	ウレタン樹脂系プライマー	kg	0.01	
			バックアップ材	ウレタンフォーム	ℓ	4.0	
			接着剤	合成ゴム系接着剤	kg	0.02	
			既設伸縮装置撤去	鋼製ジョイント	m	8.1	
			殻運搬	コンクリート構造物	m ³	-	運搬処理工にて計上
			殻処分	Co殻（有筋）	m ³	-	運搬処理工にて計上
					t	-	運搬処理工にて計上

橋梁名：中倉橋

[illegible]

1.2 断面修復工（左官工法）

1.2.1 左官工法

（１） 延べ施工量

１） ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$v1 = 0.318 = 0.318 \text{ m}^3$$

$$v2 = 0.318 \times \frac{0.18}{\text{ロス率18\%}} = 0.057 \text{ m}^3$$
$$\Sigma V = 0.375 \text{ m}^3$$

1.2.2 殻運搬

（１） コンクリート構造物

$$V = 0.318 = 0.318 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

1.2.3 殻処分（Co殻（有筋））

$$V = 0.318 = 0.318 \text{ m}^3$$

$$W = 0.318 \times 2.50 \text{ t/m}^3 = 0.795 \text{ t}$$

1.2.4 左官工法 数量計算書

※補修深さはかぶり50mm+鉄筋径16mm(推定)+余裕10mm≒80mm

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備 考
D	桁下面						
1		0.60 × 0.50	0.300	0.080	0.476	0.0240	
2		0.35 × 0.50	0.175	0.080	0.311	0.0140	
3		0.25 × 1.70	0.425	0.080	0.737	0.0340	
4		0.25 × 0.25	0.063	0.080	0.143	0.0050	
5		0.25 × 0.25	0.063	0.080	0.143	0.0050	
6		0.20 × 0.20	0.040	0.080	0.104	0.0032	
7		0.15 × 0.10	0.015	0.080	0.055	0.0012	
8		0.15 × 0.10	0.015	0.080	0.055	0.0012	
9		0.10 × 0.05	0.005	0.080	0.029	0.0004	
10		0.20 × 0.20	0.040	0.080	0.104	0.0032	
11		0.10 × 0.10	0.010	0.080	0.042	0.0008	
12		0.20 × 0.20	0.040	0.080	0.104	0.0032	
13		0.20 × 0.15	0.030	0.080	0.086	0.0024	
14		0.25 × 0.25	0.063	0.080	0.143	0.0050	
15		0.10 × 0.15	0.015	0.080	0.055	0.0012	
16		0.20 × 0.15	0.030	0.080	0.086	0.0024	
17		0.30 × 0.50	0.150	0.080	0.278	0.0120	
18		0.20 × 0.20	0.040	0.080	0.104	0.0032	
19		0.20 × 0.05	0.010	0.080	0.050	0.0008	
20		0.15 × 0.15	0.023	0.080	0.071	0.0018	
21		0.10 × 0.05	0.005	0.080	0.029	0.0004	
22		0.25 × 0.30	0.075	0.080	0.163	0.0060	
23		0.10 × 0.05	0.005	0.080	0.029	0.0004	
24		0.05 × 0.05	0.003	0.080	0.019	0.0002	
25		0.05 × 0.05	0.003	0.080	0.019	0.0002	
26		0.10 × 0.05	0.005	0.080	0.029	0.0004	
27		1.00 × 0.60	0.600	0.080	0.856	0.0480	
28		2.00 × 0.20	0.400	0.080	0.752	0.0320	
29		0.15 × 0.10	0.015	0.080	0.055	0.0012	
30		0.80 × 0.40	0.320	0.080	0.512	0.0256	
31		0.05 × 0.05	0.003	0.080	0.019	0.0002	
32		0.30 × 0.20	0.060	0.080	0.140	0.0048	
33		0.25 × 0.25	0.063	0.080	0.143	0.0050	
34		0.30 × 1.20	0.360	0.080	0.600	0.0288	
35		0.10 × 0.20	0.020	0.080	0.068	0.0016	
36		0.10 × 0.30	0.030	0.080	0.094	0.0024	
37		0.10 × 0.10	0.010	0.080	0.042	0.0008	
38		0.10 × 0.25	0.025	0.080	0.081	0.0020	
39		0.05 × 0.05	0.003	0.080	0.019	0.0002	
40		0.10 × 0.10	0.010	0.080	0.042	0.0008	
41		0.15 × 0.10	0.015	0.080	0.055	0.0012	
42		0.15 × 0.10	0.015	0.080	0.055	0.0012	
43		0.15 × 0.10	0.015	0.080	0.055	0.0012	
44		0.15 × 0.20	0.030	0.080	0.086	0.0024	
45		0.10 × 0.10	0.010	0.080	0.042	0.0008	
46		0.15 × 0.10	0.015	0.080	0.055	0.0012	
47		0.10 × 0.10	0.010	0.080	0.042	0.0008	
48		0.20 × 0.15	0.030	0.080	0.086	0.0024	
49		0.10 × 0.20	0.020	0.080	0.068	0.0016	
50		0.10 × 0.20	0.020	0.080	0.068	0.0016	

※補修深さはかぶり50mm+鉄筋径16mm(推定)+余裕10mm≒80mm

[illegible]

1.3 断面修復工（充填工法）

1.3.1 充填工法

（１） 充填工法 （セメントモルタル（無収縮モルタル））

$$V = 0.004 = 0.004 \text{ m}^3$$

（２） プライマー工

$$A = 0.160 = 0.160 \text{ m}^2$$

（３） 型枠工 （一般型枠 鉄筋コンクリート）

$$A = 0.100 \times 0.300 = 0.030 \text{ m}^2$$

1.3.2 殻運搬

（１） コンクリート構造物

$$V = 0.004 = 0.004 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

1.3.3 殻処分 （Co殻（有筋））

$$V = 0.004 = 0.004 \text{ m}^3$$

$$W = 0.004 \times 2.50 \text{ t/m}^3 = 0.010 \text{ t}$$

1.3.4 充填工法 数量計算書

[illegible]

1.4 断面修復工（充填工法 沓座モルタル補修）

1.4.1 充填工法 （セメントモルタル（無収縮モルタル））

$$V = 0.069 \times 0.030 \times 4 = 0.008 \text{ m}^3$$

1.4.2 プライマー工

$$A = (0.069 + 0.828 \times 0.030) \times 4 = 0.375 \text{ m}^2$$

1.4.3 型枠 （一般型枠 小型構造物）

$$A = (0.400 + 0.300) \times 2 \times 0.030 \times 4 = 0.168 \text{ m}^2$$

1.5 表面保護工（表面含浸工）

1.5.1 表面含浸工（固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材）

（１） 下地処理（サンダーケレン）

$$A = 74.723 = 74.723 \text{ m}^2$$

（２） 含浸材塗布工（固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材）

$$A = 74.723 = 74.723 \text{ m}^2$$

（３） 含浸材（固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材）

$$w1 = 74.723 \times 0.30 \text{ kg/m}^2 = 22.417 \text{ kg}$$

標準使用量

$$w2 = 22.417 \times 0.10$$

ロス率10%

$$\begin{array}{rcl} & = & 2.242 \text{ kg} \\ \hline \Sigma W & = & 24.659 \text{ kg} \end{array}$$

1.5.2 表面保護工数量計算書

[illegible]

1.6 塗膜除去工

1.6.1 湿式塗膜剥離工

(1) 湿式塗膜剥離工 (湿式塗膜剥離剤工法)

$$A = 74.490 \times 2 \text{回} = 148.980 \text{ m}^2$$

塗替え塗装工, 支承防錆工より

(2) 湿式塗膜剥離剤 (湿式塗膜剥離剤工法 標準塗布量 : 1.0 kg/m^2)

$$a1 = 148.980 \times 1.0 \text{ kg/m}^2 = 148.980 \text{ kg}$$

$$a2 = 148.980 \times 0.07 \text{ (ロス率7\%)} = 10.429 \text{ kg}$$

$$\Sigma A = 159.409 \text{ kg}$$

(3) 廃材の回収・積込

$$A = 148.980 = 148.980 \text{ m}^2$$

(4) 剥離剤および塗料かす運搬工

$$N = 1 \text{回} = 1 \text{回}$$

1.6.2 有害物質含有廃塗膜処分

・現塗装塗膜仕様

下塗(1層目) : 鉛系さび止めペイント 標準塗布量 : 140g/m^2

下塗(2層目) : 鉛系さび止めペイント 標準塗布量 : 140g/m^2

中塗 : 長油性フタル酸樹脂塗料中塗り 標準塗布量 : 120g/m^2

上塗 : 長油性フタル酸樹脂塗料上塗 標準塗布量 : 110g/m^2

$$W = 0.14 + 0.14 + 0.12 + 0.11 = 0.51 \text{ kg/m}^2$$

$$\Sigma W = 159.409 + 148.98 \times 0.51 = 235 \text{ kg}$$

塗装系	旧塗装系	素地調整	下 塗 り	間隔	下 塗 り	間隔	中 塗 り	間隔	上 塗 り
a-1	A-1 A-2	2 種	鉛系さび止めペイント 1 種 140g/m^2	2日～ 10日	鉛系さび止めペイント 1 種 140g/m^2	2日～ 10日	長油性フタル酸樹脂塗料中塗り 120g/m^2	2日～ 10日	長油性フタル酸樹脂塗料上塗り 110g/m^2
		3 種	鉛系さび止めペイント 1 種 140g/m^2 (鋼材面露出部のみ)	2日～ 10日	鉛系さび止めペイント 1 種 140g/m^2	2日～ 10日			
		4 種			鉛系さび止めペイント 1 種 140g/m^2	2日～ 10日			

出典 : 平成2年 鋼道路橋塗装便覧 より

1.7 塗替え塗装工, 支承防錆工

1.7.1 塗替え塗装工, 支承防錆工 (錆転換型防食塗装)

(1) 素地調整 (2種ケレン)

$$A = 74.490 = 74.490 \text{ m}^2$$

(2) 表面処理 (脱脂剤兼用防錆被膜処理剤 標準塗布量 : 40g/m^2)

$$A = 74.490 = 74.490 \text{ m}^2$$

(3) 下塗 (変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗 標準塗布量 : 100g/m^2)

$$A = 74.490 = 74.490 \text{ m}^2$$

(4) 下塗 (変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗 標準塗布量 : 100g/m^2)

$$A = 74.490 = 74.490 \text{ m}^2$$

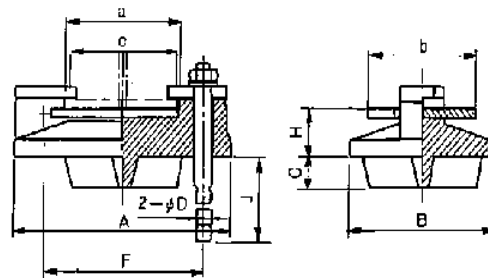
(5) 中塗 (弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 標準塗布量 : 140g/m^2)

$$A = 74.490 = 74.490 \text{ m}^2$$

(6) 上塗 (弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 標準塗布量 : 120g/m^2)

$$A = 74.490 = 74.490 \text{ m}^2$$

- ・ 支承防錆面積については、推定反力から下表を参考にして防錆面積の算出を行った。



1) 線支承(LB)

設 計 条 件						固 定 可動の 区 別	上部工との取合 寸法 mm			下部工との取合 寸法 mm						支 承 塗 装 面 積 m ²		
全反力 tf	橋軸方向水平力 tf		橋軸直角 方向地震 時水平力 tf	上揚力 tf	計 算 移動量 mm		a	b	c	A	B	C	D	F	J		H mm	支 承 荷 重 kgf
	移動時	地震時																
33	6	10.8	5.4	2.25	20	固定	216	170	200	420	240	50	28	300	440	77	52.4	0.28
30	6	5.4	5.4	2.25		可動	216	190	200	420	240	50	28	300	440	77	52.9	0.24
40	8	14.4	7.2	3.0	20	固定	216	180	200	420	260	60	32	300	480	82	61.5	0.30
40	8	7.2	7.2	3.0		可動	216	200	200	420	260	60	32	300	480	82	62.1	0.26
50	10	18.0	9.0	3.75	20	固定	216	190	200	420	280	75	36	300	560	87	71.9	0.31
50	10	9.0	9.0	3.75		可動	216	210	200	420	280	75	36	300	565	87	72.5	0.27
75	15	27.0	13.5	5.63	20	固定	266	240	250	510	340	80	46	370	730	100	127.5	0.45
75	15	13.5	13.5	5.63		可動	266	250	250	510	340	80	42	370	640	100	121.5	0.38
100	20	36.0	18.0	7.5	20	固定	316	290	300	610	400	80	55	440	840	115	202.1	0.63
100	20	18.0	18.0	7.5		可動	316	300	300	610	400	80	50	440	760	115	191.1	0.52

出典：'93デザインデータブック より

1.7.2 塗替え塗装工, 支承防錆工数量計算書

部位	参照番号	計 算 式	面数	個数	Net	塗装面積 (m ²)	適 用
主桁							
U.Flг.PL.	G1,G2	15.440×0.201	1	2	100%	6.207	
		$- 0.012 \times 15.440$	1	2	100%	-0.371	Web.PL.との設置面
		$- 0.009 \times 0.090$	1	12	100%	-0.010	V.St.PL.との設置面
		0.020×15.440	1	2	100%	0.618	
		$- 0.020 \times 0.289$	1	1	100%	-0.006	縦桁との設置面
Web.PL.	G1,G2	0.580×15.440	2	2	100%	35.821	
L.Flг.PL.	G1,G2	0.500×0.200	2	2	100%	0.400	
		$1/2 \times (0.200 + 0.300) \times 0.500$	2	2	100%	0.500	
		13.440×0.300	2	2	100%	16.128	
		$- 0.012 \times 15.440$	1	2	100%	-0.371	Web.PL.との設置面
		$- 0.009 \times 0.090$	1	12	100%	-0.010	V.St.PL.との設置面
		0.017×0.500	2	4	100%	0.068	
		0.017×0.502	2	4	100%	0.068	
		0.017×3.000	2	4	100%	0.408	
		$1/2 \times (0.017 + 0.024) \times 0.075$	2	4	100%	0.012	
		0.024×7.290	2	2	100%	0.700	
		$- 0.009 \times 0.432$	1	1	100%	-0.004	縦桁との設置面
V.St.PL.	G1,G2	0.090×0.580	2	12	100%	1.253	
		小計				61.411	
縦桁							
U.Flг.PL.	St1	2.447×0.201	1	1	100%	0.492	
		$- 0.012 \times 2.447$	2	1	100%	-0.059	Web.PL.との設置面
		0.020×2.447	2	1	100%	0.098	
Web.PL.	St1	0.588×2.583	2	1	100%	3.038	
L.Flг.PL.	St1	2.375×0.300	2	1	100%	1.425	
		$- 0.012 \times 2.375$	2	1	100%	-0.057	Web.PL.との設置面
		0.009×2.375	2	1	100%	0.043	
		小計				4.980	
端横桁							
	C1,C4	$1.788 \times 30.3\text{kg/m} \times 0.0236\text{m}^2/\text{kg}$	1	2	100%	2.557	
		0.027	2	4	100%	0.216	
中間横桁							
	C2,C3	$1.788 \times 30.3\text{kg/m} \times 0.0236\text{m}^2/\text{kg}$	1	2	100%	2.557	
		0.009	2	4	100%	0.072	
		小計				5.402	
支承							
Sh	固定	0.280	1	2	100%	0.560	93デザインデータブック より
	可動	0.240	1	2	100%	0.480	93デザインデータブック より
		小計				1.040	
排水管							
Pipe		$\pi \times 0.1143 \times 0.880$	1	4	100%	1.264	
PL.		0.050×0.451	2	6	100%	0.271	
		0.050×0.511	2	2	100%	0.102	
		0.050×0.050	2	4	100%	0.020	
		小計				1.657	
合計							
		合計				74.490	

1.8 舗装工

1.8.1 オーバーレイ工

$$A = 3.000 \times 5.800 = 17.400 \text{ m}^2$$

1.9 伸縮装置工（荷重支持型ジョイント）

1.9.1 ゴム製伸縮装置

（１） 荷重支持型 ゴムジョイント-25mm用 （車道部）

$$L = 3.000 = 3.000 \text{ m}$$

（２） 荷重支持型 ゴムジョイント-20mm用 （車道部）

$$L = 5.097 \quad \begin{array}{r} = 5.097 \text{ m} \\ \hline \Sigma L = 8.097 \text{ m} \end{array}$$

1.9.2 二次止水材（ゴム樋帆布入り）

$$L = 8.097 = 8.097 \text{ m}$$

1.9.3 後打ちコンクリート（超速硬コンクリート）

$$\begin{array}{l} A1 \\ v1 = 3.000 \times 0.650 \times 0.120 = 0.234 \text{ m}^3 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} A2 \\ v2 = 5.097 \times 0.650 \times 0.120 \\ \hline \Sigma V = 0.632 \text{ m}^3 \end{array}$$

1.9.4 補強鉄筋（D16）

$$W = 18.7 + 31.9 = 51 \text{ kg}$$

1.9.5 コンクリートアンカー（D16用）

$$N = 40 + 68 = 108 \text{ 本}$$

1.9.6 シール材（シリコーン系）

$$L = 0.600 + 0.717 = 1.317 \text{ m}$$

$$V = 1.317 \times 0.030 \times 0.020 \times 1000 = 0.8 \text{ l}$$

1.9.7 プライマー (ウレタン樹脂系プライマー)

$$w1 = (0.020 \times 2 + 0.030) \times 0.600 \times 0.15 \text{ kg} = 0.006 \text{ kg}$$

$$w2 = (0.020 \times 2 + 0.030) \times 0.717 \times 0.15 \text{ kg} = 0.008 \text{ kg}$$

$$\Sigma W = 0.014 \text{ kg}$$

1.9.8 バックアップ材 (ウレタンフォーム 60×50mm)

$$L = 0.600 + 0.717 = 1.317 \text{ m}$$

$$V = 1.317 \times 0.060 \times 0.050 \times 1000 \text{ ℓ/m}^3 = 3.951 \text{ ℓ}$$

1.9.9 接着剤 (合成ゴム系接着剤)

$$w1 = 0.050 \times 2 \times 0.600 \times 0.15 \text{ kg} = 0.009 \text{ kg}$$

$$w2 = 0.050 \times 2 \times 0.717 \times 0.15 \text{ kg} = 0.011 \text{ kg}$$

$$\Sigma W = 0.020 \text{ kg}$$

1.9.10 既設伸縮装置撤去

(1) 鋼製ジョイント

A1

車道部

$$L1 = 3.000 = 3.000 \text{ m}$$

A2

車道部

$$L2 = 5.097 = 5.097 \text{ m}$$

$$\Sigma L = 8.097 \text{ m}$$

1.9.11 殻運搬

(1) コンクリート構造物

$$\begin{array}{l} \text{A1} \\ v1 = 3.000 \times 0.650 \times 0.120 = 0.234 \text{ m}^3 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{A2} \\ v2 = 5.097 \times 0.650 \times 0.120 \\ \hline \Sigma V = 0.632 \text{ m}^3 \end{array}$$

1.9.12 殻処分 (Co殻 (有筋))

$$V = 0.632 = 0.632 \text{ m}^3$$

$$W = 0.632 \times 2.50 \text{ t/m}^3 = 1.580 \text{ t}$$

1.10 水切り工

1.10.1 後付け型水切り材 (EPDM系ゴム製水切り材 W25×H20mm)

$$L = 16.320 + 15.440 = 31.760 \text{ m}$$

1.10.2 下地処理

$$A = 31.760 \times 0.025 = 0.794 \text{ m}^2$$

1.10.3 接着剤塗布 (エポキシ樹脂系接着剤)

$$A = 31.760 \times 0.025 = 0.794 \text{ m}^2$$

1.11 運搬処理工

1.11.1 殻運搬

(1) コンクリート構造物

1) 断面修復工（左官工法）

$$V = 0.318 \quad = 0.318 \text{ m}^3$$

2) 断面修復工（充填工法）

$$V = 0.004 \quad = 0.004 \text{ m}^3$$

3) 伸縮装置工（荷重支持型ジョイント）

$$V = 0.632 \quad \begin{array}{r} = 0.632 \text{ m}^3 \\ \hline \Sigma V = 0.954 \text{ m}^3 \end{array}$$

1.11.2 殻処分（Co殻（有筋））

$$V = 0.954 \quad = 0.954 \text{ m}^3$$

$$W = 0.954 \times 2.50 \text{ t/m}^3 \quad = 2.385 \text{ t}$$

1.12 仮設足場工

1.12.1 吊足場

(1) 吊足場 (TYPE A1 吊足場 桁高 $h < 1.5$)

$$a1 = 15.500 \times 3.600 = 55.800 \text{ m}^2$$

$$a2 = \frac{1}{2} \times 2.308 \times 2.229 = \frac{2.572 \text{ m}^2}{\Sigma A = 58.372 \text{ m}^2}$$

(2) 床面シート張防護 (床面シート張防護設置時)

$$A = 58.372 = 58.372 \text{ m}^2$$

(3) 朝顔 (TYPE B 朝顔(両側))

$$A = 58.372 = 58.372 \text{ m}^2$$

(4) 防護工 (TYPE B シート張防護工(両側))

$$A = 58.372 = 58.372 \text{ m}^2$$

1.13 塗膜剝離剤工用養生設備工

1.13.1 剝離剤工用養生設備

$$a1 = 15.500 \times 3.600 = 55.800 \text{ m}^2$$

$$a2 = \frac{1}{2} \times 2.308 \times 2.229 = \frac{2.572 \text{ m}^2}{\Sigma A = 58.372 \text{ m}^2}$$

橋梁名：中倉橋

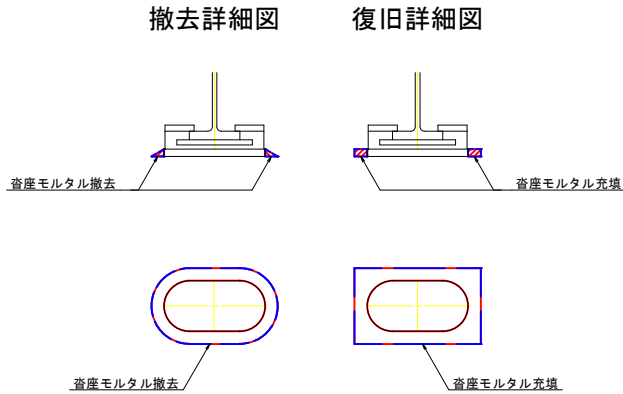
[illegible]

橋梁名：中倉橋

種 別	細 別 ・ 規 格	単位	全数量	能力/組	組数	組数能力	実働日数 (日)	供用係数	作業日数 (日)	出 典	備 考
水切り工	水切り設置	m	31.8	40.0	1	40.0	0.8	1.8	2	メーカー公表歩掛 40m/日	ウォーターカッター
	合計日数	式	1				0.8		2		
塗膜除去工 (塗膜剥離剤)	塗膜剥離剤塗布・塗膜除去	m ²	149	50.0	1	50.0	3.0	1.8	6	2023. 1土木コスト情報 p. 505	
	塗膜剥離剤廃材の回収・積込	m ²	149	50.0	1	50.0	3.0	1.8	6	2023. 1土木コスト情報 p. 505	
	合計日数	式	1				6.0		12		
塗替え塗装工 (錆転換型防食塗装)	素地調整 2種ケレン	m ²	74.5	46.4	1	46.4	1.7	1.8	4	メーカー歩掛 9.28m ² /人・日 5人/パーティー	アースコート防錆-塗装システム
	表面被膜処理	m ²	74.5	240.0	1	240.0	0.4	1.8	1	メーカー歩掛 48.0m ² /人・日 5人/パーティー	アースコート防錆-塗装システム
	防錆塗装	m ²	74.5	222.4	1	222.4	0.4	1.8	1	メーカー歩掛 44.48m ² /人・日 5人/パーティー	アースコート防錆-塗装システム
	防錆塗装	m ²	74.5	240.0	1	240.0	0.4	1.8	1	メーカー歩掛 48.0m ² /人・日 5人/パーティー	アースコート防錆-塗装システム
	中塗	m ²	74.5	240.0	1	240.0	0.4	1.8	1	メーカー歩掛 48.0m ² /人・日 5人/パーティー	アースコート防錆-塗装システム
	上塗	m ²	74.5	240.0	1	240.0	0.4	1.8	1	メーカー歩掛 48.0m ² /人・日 5人/パーティー	アースコート防錆-塗装システム
	合計日数	式	1				3.7		9		
断面修復工 (充填工法)	プライマー工	m ²	0.60	96.3	1	96.3	0.1	1.8	1	土木工事標準積算基準書(共通編) 令和4年8月/広島県 I-249	
	型枠工	m ²	0.23	15.0	1	15.0	0.1	1.8	1	土木工事標準積算基準書(共通編) 令和4年8月/広島県 I-191	
	断面修復	m ³	0.01	0.4	1	0.4	0.1	1.8	1	平成26年度香川県 橋梁補修工事標準歩掛	
	合計日数	式	1				0.3		3		
交通誘導員数 仮設足場設置日数											
							10.5			15*2 (人/日) = 30人	
									47	47/30 (日/ヵ月) = 1.6ヵ月	

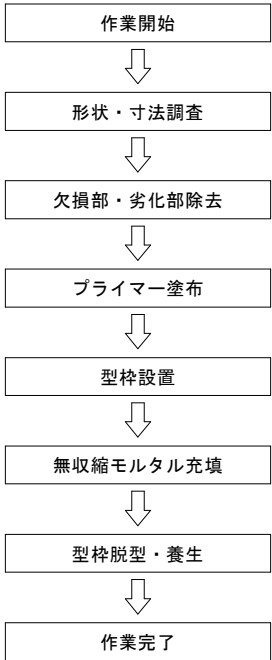
荻下橋 補修詳細図（参考図）

沓座モルタル打替工
（参考図）

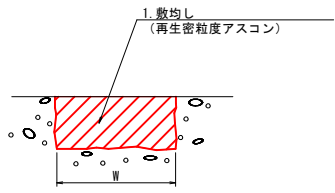


※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順

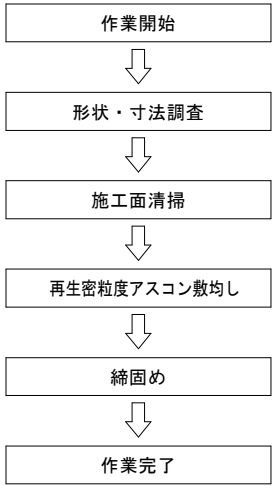


欠損部補修工
（参考図）

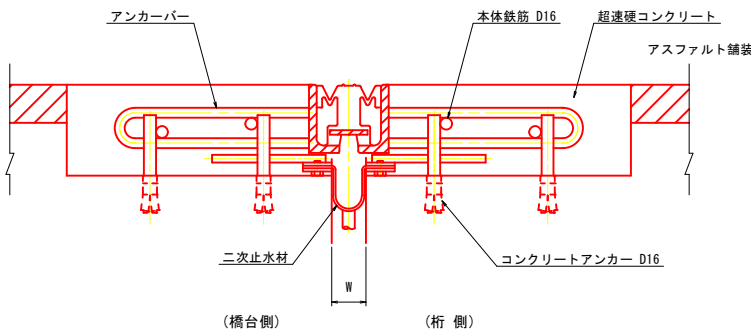


※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 供用後縁端部の沈下が起こりやすいので必要に応じて表層の仕上がり面は既設の舗装より5mm程度高くなるようにしておくこと。

施工手順

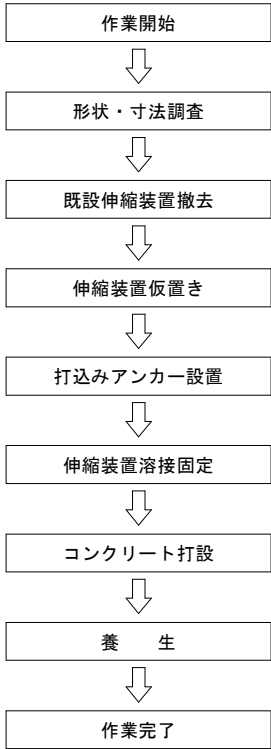


伸縮装置工
（参考図）

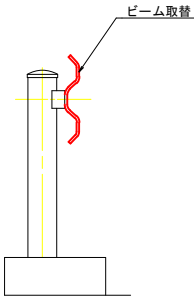


※ 伸縮装置取付部の舗装面に凹凸やわだち揺れがある場合は、施工前に補修しておくこと。
※ 施工時に既設床版を切欠く場合は、予め鉄筋探索を行い鉄筋の位置を確認後、損傷を与えないように取壊しを行うこと。

施工手順

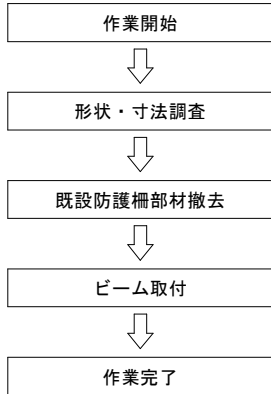


部材部分取替工
（参考図）



※ 施工の際は日々復旧を行い、交通規制解放後に交通の支障とならないように復旧を行うこと。

施工手順

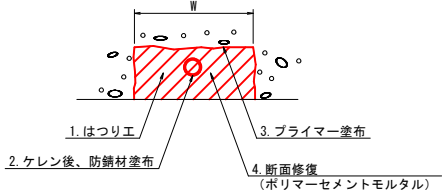


※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

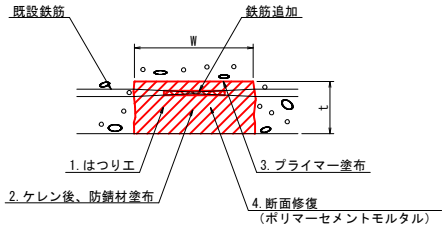
荻下橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修詳細図(参考図)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	参考図1
三 原 市			

中倉橋 補修詳細図（参考図）（その1）

断面修復工（左官工法）
（参考図）

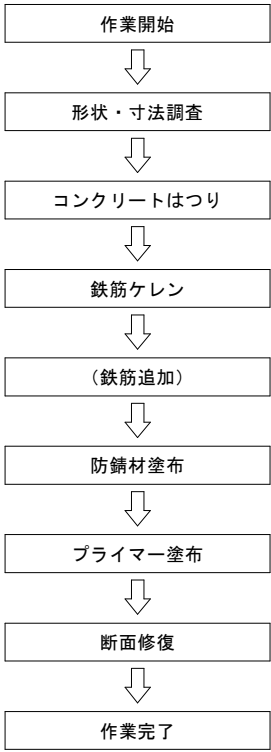


断面修復工（鉄筋追加）（左官工法）
（参考図）

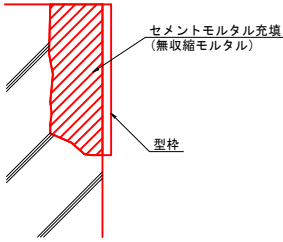


- ※ 鉄筋周辺のうきおよび劣化したコンクリートは除去すること。
- ※ 端部は、L字カットを行い、フェザーエッジとならない処理を行うこと。
- ※ 腐食鉄筋のケレンに伴い鉄筋断面が著しく減少した箇所（25%以下）は、新たに同径の鉄筋を追加設置すること。
- ※ 鉄筋を追加する場合は、必要な鉄筋継ぎ手長を確保すること。
- ※ 断面修復工は、原形復旧を基本とするが、純かぶり10mm未満の箇所については、10mm以上のかぶり厚を確保させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順

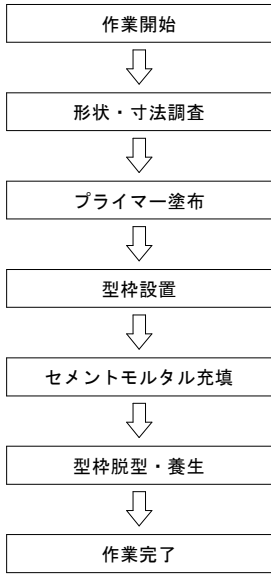


断面修復工（充填工法）
（参考図）

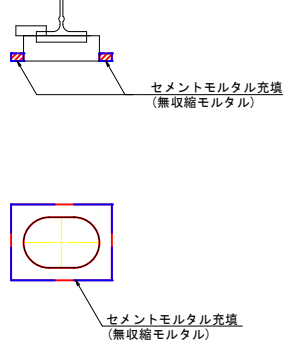


※ 劣化したコンクリートは除去すること。

施工手順

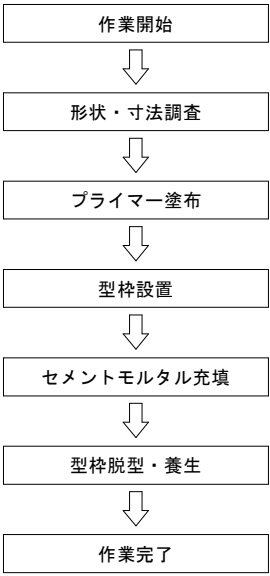


沓座モルタル打替工
（参考図）

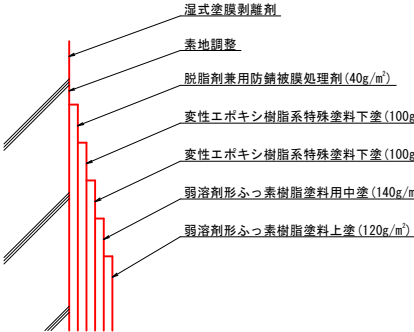


※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順



塗膜除去工, 塗替え塗装工, 支承防錆工
（参考図）

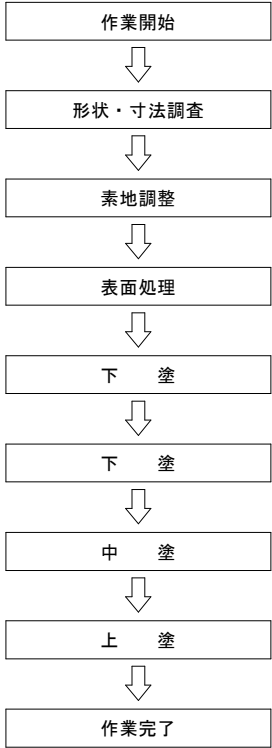


塗装仕様：錆転換型防食塗装

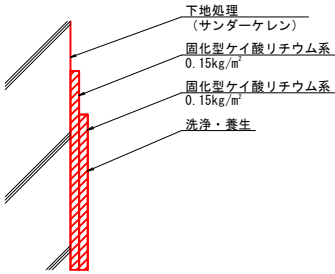
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)
素地調整	2 種	
表面処理	脱脂剤兼用防錆被膜処理剤	40
下 塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	100
下 塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	100
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120

- ※ 素地調整の種別は2種を想定。
- ※ 十分な接着効果を得るために、施工対象となる鋼材面の不純物(油、ゴミ等)を十分に除去すること。
- ※ 塗装面のケレンは十分に行うこと。
- ※ 気温5℃以下、湿度85RH%以上では施工しないこと。
- ※ 塗布量は標準使用量以上とすること。
- ※ 施工後の材料が乾燥するまで、塗布面が濡れないこと。
- ※ 降雨、降雪のとき、またはその恐れが或る時は使用しないこと。
- ※ 材料は可使用時間内に塗布を行い、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順

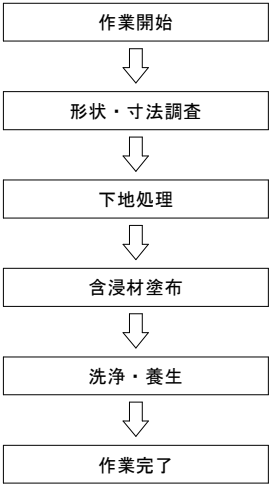


表面保護工
（参考図）



- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.30kg/m²以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順

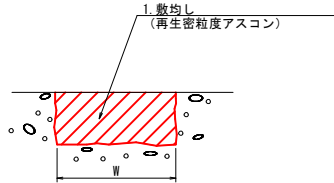


- ※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線鞍下橋外1橋)		
図 面 名	補修詳細図（参考図）(その1)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	参考図1
三 原 市			

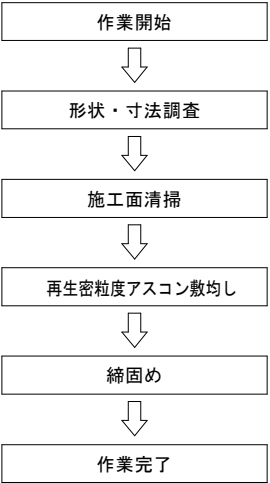
中倉橋 補修詳細図(参考図)(その2)

オーバーレイ工
(参考図)

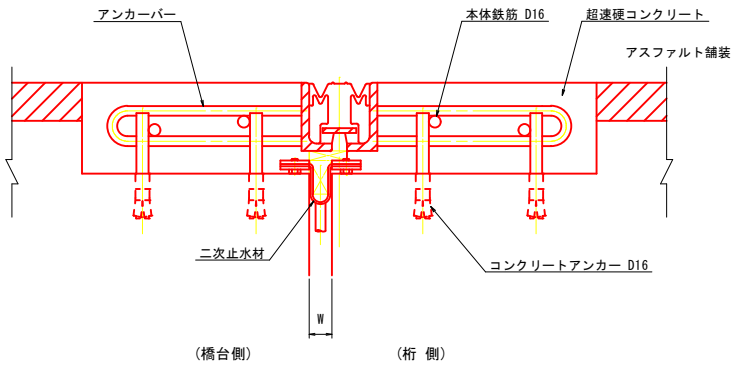


- ※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 供用後縁端部の沈下が起こりやすいので必要に応じて表層の仕上がり面は既設の舗装より5mm程度高くなるようにしておくこと。

施工手順

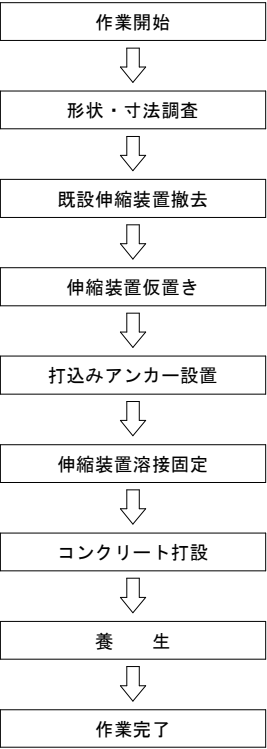


伸縮装置工
(参考図)

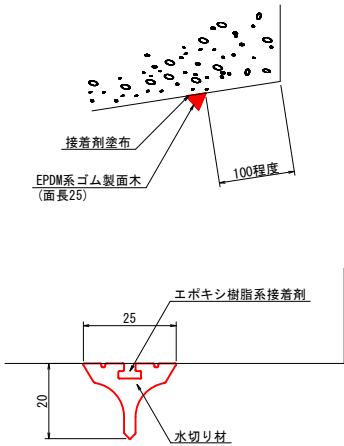


- ※ 伸縮装置取付部の舗装面に凹凸やわだち掘れがある場合は、施工前に補修しておくこと。
- ※ 施工時に既設床版を切欠く場合は、予め鉄筋探査を行い鉄筋の位置を確認後、損傷を与えないように取壊しを行うこと。

施工手順

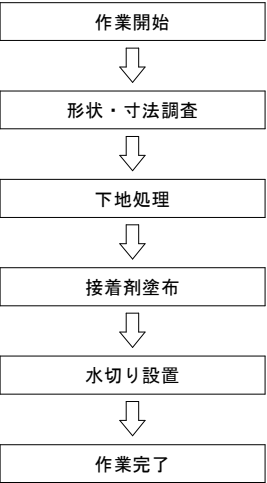


水切り工
(参考図)



- ※ 水切り設置面のコンクリートは、不陸のないよう調整を行うこと。

施工手順

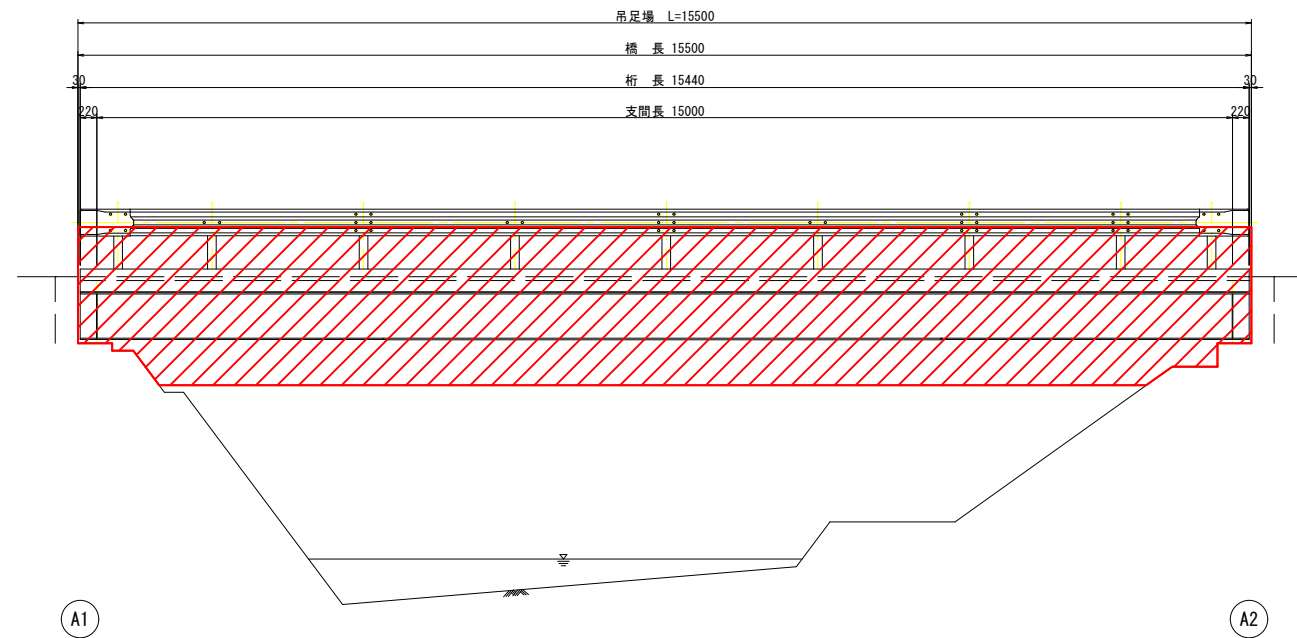


- ※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

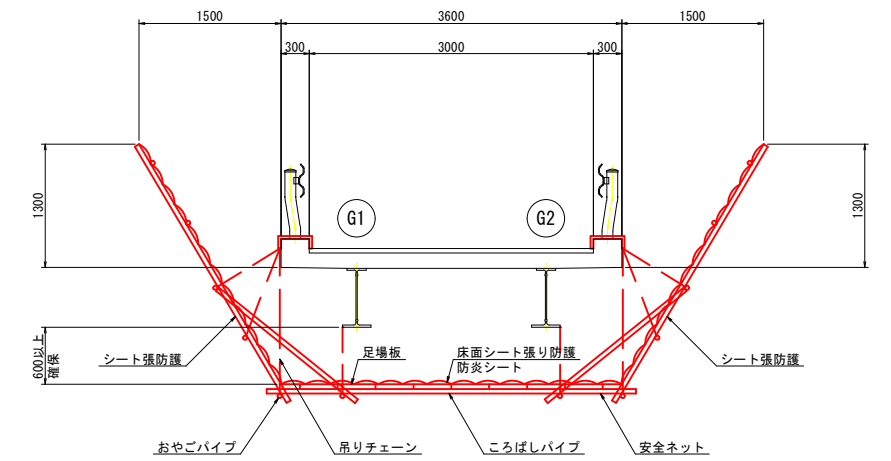
中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	補修詳細図(参考図)(その2)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	参考図2
三 原 市			

中倉橋 仮設足場図（参考図）

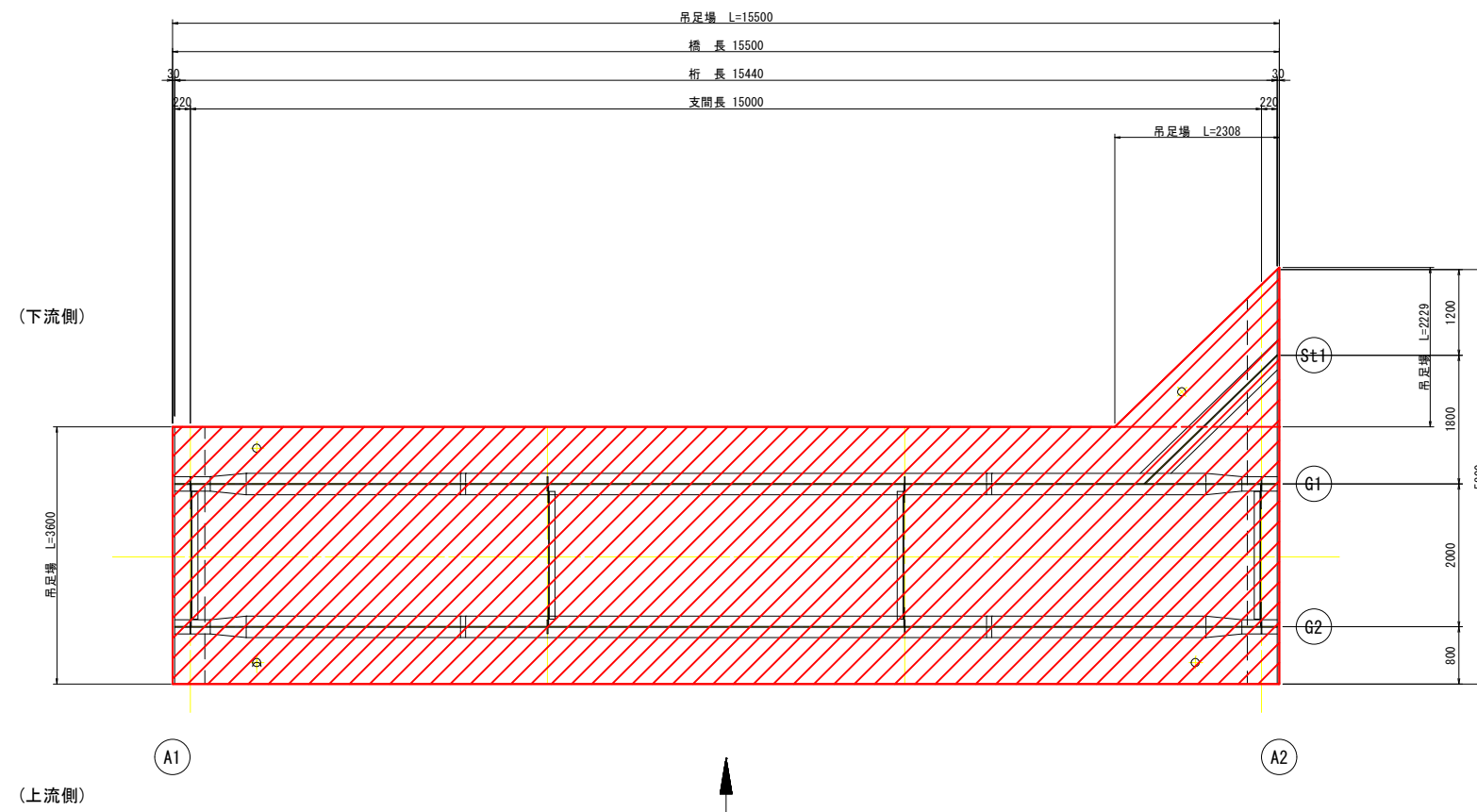
側面図 S=1:50



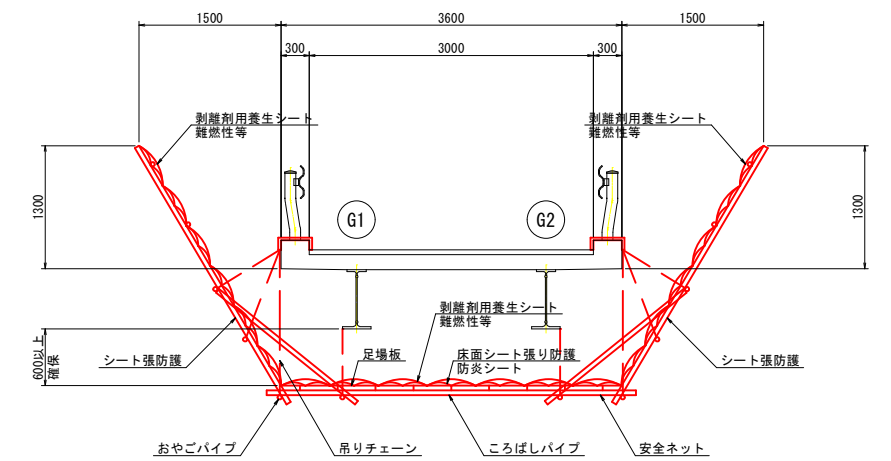
標準断面図 S=1:40



平面図 S=1:50



湿式塗膜剥離工 施工時



凡 例

	吊足場 (TYPE A1)
	朝顔 (TYPE B)

中倉橋			
工 事 名	橋梁補修工事 (市道大和町萩原貫茂線萩下橋外1橋)		
図 面 名	仮設足場図 (参考図)		
場 所	三原市大和町		
縮 尺	図 示	図面番号	参考図3
三 原 市			

位置図【萩下橋】
(34.56780,132.95708)



この図は、国土地理院地図を使用したものである。

位置図【中倉橋】
(34.50388,132.95236)



この図は、国土地理院地図を使用したものである。